

平成19年度
支笏洞爺ニセコルート活動報告
《ウェルカム北海道エリア》

- O. 地域活動報告の概要
 - 1. ルート運営活動計画に関する地域の報告
 - 2. ルート運営活動計画に関する行政の報告
 - 3. 地域及び行政の運営に関する報告
 - 4. 審査委員会意見に関する報告

0-地域活動報告の概要

・地域活動に関する報告(支笏洞爺ニセコルート:ウェルカム北海道エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:ウェルカム北海道エリア 代表 佐藤哲也	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	-------------------------	----------------

ルート(エリア)運営計画基本方針		ルート(エリア)運営計画活動内容	活動No	平成19年度 地域活動(総括)
景観形成	来訪者をもてなすウェルカムルートの創出	エリアインフォメーションシステムの検討	S W - 1・2	<p>◇景観づくりの目標「北海道の玄関口にふさわしい美しい景観づくり」に向けて</p> <p>・観光シーズン前の早朝清掃活動や、おもてなしの心を込めた空港アクセス沿道を彩る春と秋の植栽活動(花苗の越冬)等を継続して実施。学校、地域、企業、行政と徐々に活動の輪を広げ、定着しつつある。</p> <p>・また、平成19年12月には、エリアの景観について地域と行政と一緒に検討・情報共有する場として「景観検討会」を組織。次年度の植栽計画等について検討進めている。</p> <p>・一方、玄関口にふさわしいエリアインフォメーション機能については、情報拠点の充実や、魅力的な資源発掘・周遊ルートの検討(裏街道53次)を進めておりエリアマップ等の作成を目指し、媒体や仕組みづくりに取り組んでいる。</p> <p>・今後は、道以外の水辺や河川系の活動団体と連携をすすめ、眺望ポイントの整理を行うなど、地域で活躍されている他分野の方々へ活動の輪を広げていきたい。</p>
	北海道らしい清らかな水を印象づけるみちづくりの促進	エリアマップの作成	S W - 3	
		支笏湖の湖面利用に関する規制	完了	
		水辺の眺望ポイントの整理	S W - 3	
	花とみどりによる四季の感じられる景観形成	河川や湖面、沿道の清掃(清掃活動の推進)	S W - 4・5	
		みどりのマイルストーン(道標)の整備		
		ウェルカムゲートの整備促進	S W - 6・7・8・9	
	エリアの景観ルールづくり	花とみどり(紅葉する樹木)の植栽	S W - 10	
		看板や広告物の規制の検討	S W - 11	
観光振興	周辺の田園地帯や水資源を活用した魅力づくり	ファームイン・体験農園との連携の検討		<p>◇観光振興の目標「エリアの観光資源をつないだ周遊ルートの創出」に向けて</p> <p>・地域ガイドが同乗するバスツアーや周遊シャトルバスを毎年継続して運行、エリアの企業見学や、地元産品の活用を盛り込むなど、地域と連携した魅力のPRを行い人気を集めている。毎年、料金設定やメニューを工夫し採算性を高める工夫をしているが、引き続き、他機関と連携を図り、継続した活動を目指す。</p> <p>・今年度は、エリアのホームページにてイベント情報を発信するとともに、活動ブログを公開し、活動の概要を紹介。イベント告知のみではなく、多様な側面から地域の魅力を伝える情報提供に努めた。</p> <p>・ルート連携事業として、「シーニックナイト」の取組が3年目を迎え、当エリアにおいては、「恵庭キャンドルナイト」、「支笏湖雪灯りの散歩道」として、地域住民や学校、企業などと連携が広がり、地域のイベントとして定着しつつある。今後も、ルート連携を図りつつ、より地域が参加しやすい取組となるよう、早期の開催スケジュール決定や運営体制、参加の仕組みづくりを進める。</p>
		食をテーマにした特產品の開発・地域連携の推進	S W - 12	
		エリア企業との連携による魅力づくり	S W - 10	
	エリアの魅力を伝えるイベントなどの開催	サンセットコンサート・クリスマスイベントの開催	S W - 13	
		観光コミュニティバスの実験運行	S W - 10・14	
	エリアの周遊性を高めるしくみと情報発信	ホームページの作成	S W - 15	
		エリアの周遊の検討	S W - 3	
	ルートを対象としたイベント・ツアーの企画・実施(シーニックナイト～灯りで繋ぐ雪の道～)		S W - 16・17・18	
	特定テーマによるルートプロモーション活動		S W - 19	
地域づくり	地域資源の発掘と保全活用	支笏湖タウンマップの作成	S W - 20	<p>◇地域づくりの目標「地域住民による地域資源の再発見と地域資源の活用による文化と産業の醸成」に向けて</p> <p>・地域と行政が実際に現地を訪れるエリア周遊会議を開催し、地域資源の魅力と課題を共有。今後も、それぞれが役割を担う地域づくりに努める。</p> <p>・策定から3年を経たルート運営活動計画において、「旧ユースホステルの保全・活用」との記載から、エリア全体へ取組の視野を広げることを目的とし記載内容を「歴史や文化資源も含めた地域資源の発掘と活用」へ変更。今後も、エリアの運営状況を鑑み適宜対応した取組を行う。</p> <p>・地域のブランド化やコミュニティビジネスの創出においては、恵庭の「花」への注目や支笏湖の「ヒメマス」の漁業権獲得、バスツアーでの人気の定着等、前進しつつあるが、ビジネスとしての採算性の確保までは至っていない。ビジネス的な視点と地域づくりとしての視点のバランスを考慮しつつ、持続可能な運営を目指し引き続き取組を進める。</p> <p>・「支笏湖たいがく塾」の復活や「恵庭キャンドルナイトの反省会」など、各地域で地域を学ぶ場や交流の場ができる。今後は、エリアやルートを視野にいれた学びや交流の場を増やしていく。</p> <p>・環境への配慮について、シャトルバス等CO2削減に寄与する取組を継続。昨今の社会情勢も踏まえ、各活動においても配慮を心がける。</p>
		旧ユースホステルの保全・活用	更新	
		タウンウォッチングなどによる地域資源の発掘	S W - 21	
	地域の資源を活かしたコミュニティビジネスの創出	地域ブランド化の検討		
		手づくり品・オリジナルポストカードの制作	S W - 3	
		コミュニティビジネス研究	S W - 10・14	
	交流と連携による地域づくりの推進	子ども・住民向け文化事業の推進・活動参加のしくみづくり	S W - 19	
		各研修会などの開催	S W - 22	
		タウンミーティングの開催	S W - 23	
	「環境」の視点を取り入れた自然公園地域づくりの推進	CO2削減	S W - 14	
		自然環境学習・教育プログラム	S W - 7・8・9	

支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-1

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

シーニックバイウェイ情報拠点 えにわ市民プラザ・アイル

【内 容】 惠庭市民の憩い、学び、情報交流の場として誕生したコミュニティスペースに、シニックバイウェイ北海道の情報コーナーを開設。SCENEのバックナンバーや制度パンフレット等を設置し、シニックバイウェイ北海道の周知を行った。

【日 時】 平成19年度

【場 所】 惠庭市本町11番地

【主 催】 えにわ市民プラザ・アイル運営協議会（えにわシニックプロジェクト）



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-2

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

ルックルック恵庭調査隊

【内 容】 「FMパンプキン」にて、隔週の水曜日（8：30～8：45）の15分間、恵庭の隠れた魅力にせまる番組を放送。恵庭の歴史やシニックの取り組みを情報発信。

【日 時】 平成19年度

【場 所】 惠庭市内及び近隣で視聴可能

【主 催】 えにわシニックプロジェクト

【周波数】 77.8MHz



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-3

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

地域資源発掘と周遊ルートの提案『裏街道53次』

- 【内 容】ウエルカム北海道エリアの魅力ある地域資源を収集し、つなげて新たな観光周遊ルートの創出を目指す取り組み。今年度は、情報提供媒体について検討。
- 【日 時】平成19年度
- 【場 所】ウエルカム北海道エリアとその周辺を対象とする
- 【主 催】ウエルカム北海道エリア代表者会議
- 【参加人数】12名



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-4

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『453・530（ヨゴサン・ゴミゼロ）キャンペーンin支笏湖』

- 【内 容】ゴミゼロ運動として、支笏湖温泉から丸山分岐までの国道453号の清掃活動を実施。支笏湖小学校の児童も参加し園地の清掃も同時に実施。継続4年目を迎える取り組み。
- 【日 時】平成19年5月30日（水）6：15～7：30
- 【場 所】支笏湖駐車場集合 一般国道453号支笏湖畔～苫小牧分岐付近
- 【主 催】NPO法人支笏湖まちづくり機構Neoステージ
- 【協 力】千歳市、（財）自然公園財団支笏湖支部、札幌開発建設部
- 【参加人数】90名



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-5

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『えにわ湖慈しみフェスタ』

【内 容】えにわ湖の水質浄化を目指し、植栽を行った後、ダム周辺及び上流域（道道恵庭岳公園線）において清掃活動を実施。河川愛護団体や経済団体をはじめ、地元企業、高校生ボランティアなどが参加。

【日 時】平成19年7月21日（土）(9:30～13:00)

【場 所】漁川ダム（えにわ湖）及び周辺（道道恵庭岳公園線）

【主 催】えにわ湖慈しみフェスタ実行委員会 【協 力】えにわシニックプロジェクト

【協 賛】サッポロビール（株）北海道工場、山崎製パン（株）札幌工場、（株）アレフ、（株）玉川組、（株）エバーライフ、恵み野郵便局、発砲スナロール再資源化協会、ヤマキ山下工業（株）

【後 援】石狩川開発建設部漁川ダム管理所、石狩東部広域水道企業団、恵庭土地改良区、北海道新聞千歳支局、千歳民報社、恵庭市

【参加人数】250名



プログラム

○受付（ダム下公園あづまや）	09:00～09:30
● 全場のダム堤まで徒歩で500m歩きます。	
○開会式（ダム堤内）	09:30～09:40
● 実行委員長挨拶	
● 災害防災説明	
○サリガキ説明、清掃活動の説明	09:40～09:50
○植栽作業（開会式会場）	09:50～10:20
○清掃作業	10:20～12:00
＊ 各自バス等に分乗して、班ごとに指定ポイントのゴミ拾いを行います。ゴミは回収車で回収しますので、ご安心ください。	
＊ 開会式終了時間になりましたら、バス等に乗ってダム下公園に集合してください。	
○昼食会（ダム下公園）	12:00～12:40
● 食事、飲み物を配りますので、あづまやで受け取ってください。その後に交流ライブ大会を行います。	
○閉会式（ダム下公園）	12:40～12:45
● 実行委員長挨拶	
● 開会式バスが恵庭市役所前で戻ります。	

支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-6

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『道道恵庭岳公園線植えるカム花ロード』

【内 容】恵庭インターチェンジから市街地に向けた中央分離帯に、恵庭市・土木現業所・えにわシニックプロジェクトの他、フラワーマスターの会、老人俱楽部、町内会等、地域住民が協働し、植栽と宿根草周辺の雑草除去をはじめ、今年は一部植栽場所を移植。

【日 時】平成19年6月9日（土）

【場 所】道道恵庭岳公園線（恵庭市牧場周辺）/おひさま公園（恵庭市美咲野3丁目8）

【主 催】恵庭市

【協 力】札幌土木現業所千歳出張所・えにわシニックプロジェクト

【参加人数】130名



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-7

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『『千歳ウェルカム花ロードver.5～春の彩り～』』

【内 容】5年目を迎えるこの取り組みは、北海道の玄関口である新千歳空港周辺のイメージアップと観光客の増加を目的とし、空港からのメインルートである国道36号、道道千歳インター線合わせて約4.5kmの沿道に花の植栽した他、東日本高速道路（株）により、インターの入口にもプランターが設置されました。市民・学校・企業・行政・道路管理者が連携し、『おもてなしの心』を表す花植えを実施

【日 時】平成19年5月24日（木）9：45～11：30

【場 所】新千歳空港周辺、国道36号・道道千歳インター線

【主 催】社団法人千歳青年会議所・北海道開発局札幌開発建設部・札幌土木現業所・千歳市

【協 力】千歳市公園緑化協会、千歳市フラワーマスターの会、千歳花俱楽部、千歳建設業協会、東日本高速道路㈱、沿線町内会等
支笏洞爺ニセコルート、ウェルカム北海道エリア代表者会議・行政連絡会議

【参加人数】約700名（内、千歳小学校104名、日の出小学校108名）



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-8

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『千歳ウェルカム花ロードver.5～秋の彩り～』

【内 容】北海道の玄関口にふさわしいおもてなしとして、小学校と連携した花植え活動を実践。今年で、5年目を迎えた他機関との連携など、活動が広がりつつある。春、秋の2シーズンで展開し季節の彩りに配慮した活動を実施。

【日 時】平成19年9月20日（木）～21日（金）

【場 所】国道36号（新千歳空港周辺）

【主 催】社団法人千歳青年会議所・北海道開発局札幌開発建設部

【協 力】千歳市

【参加人数】千歳市立緑小学校：20日（木）3年生62名参加
桜木小学校：21日（金）6年生98名参加



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-9

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『千歳ウェルカム花ロードver.5～越冬プロジェクト～』

【内 容】今年の取り組みでは、来年の春に沢山の花を咲かせるために、むしろや土の中の断熱性を高めるために発泡スチロールを利用するなど、植え方を工夫して試行。越冬に成功した花は、来春の千歳ウェルカム花ロードで再び沿道に飾られる。

【日 時】平成19年11月30日（金）

【場 所】千歳市役所花壇（60苗）千歳市立緑小学校（60苗）千歳市立桜木小学校（50苗）

千歳道路事務所（16苗）

【主 催】社団法人千歳青年会議所

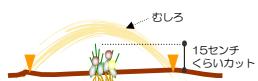
【協 力】北海道開発局札幌開発建設部・千歳道路事務所・千歳市

【参加人数】80名



☆お花の植え替え方

☆プランターに植わっている現在の状態



☆茎の部分を根元から10～15センチくらいの高さでカットします
☆保温と通気のため「むしろ」を被せます。

・雪が融けたら、むしろをとりましょう。芽が出ていれば成功です！！
・植え替えから1週間位たったら、「追肥(ついひ)」（植物の生長のために必要な養分）を与えましょう。

支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-10

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『えにわいいとこどりツアー』

【内 容】恵庭市内の見所を住民ボランティアのガイドにより見学する人気のバスツアー。大自然を満喫しながら、キノコ狩りやオカリナコンサート、くるみの木の植樹、地元の食材を活かしたランチ、タペストリーづくり体験、紅葉散策など、恵庭の魅力が盛り込まれたツアー。

【日 時】平成19年10月14日（土）

【場 所】JR各駅（札幌、新札幌、恵庭）→緑のふるさと森林公園→ラルマナイ自然公園→サッポロビール工場→道の駅「花ロードえにわ」→JR各駅

【主 催】社団法人恵庭観光協会・えにわシニックプロジェクト

【協 力】ノーススターリスト・恵庭市役所



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-11

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

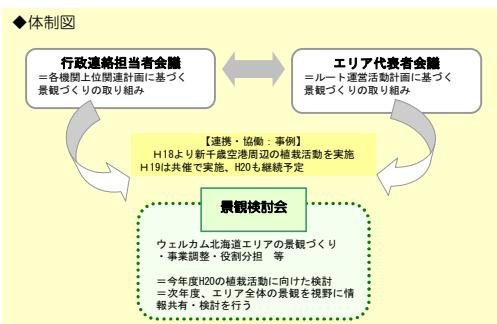
『景観検討会の開催』

【内 容】エリアの景観について地域と行政が協働し検討する場として、景観検討会を組織。
(平成19年12月)。今年度においては、千歳エリアを中心に、平成20年度の千歳
ウェルカム花ロードについて検討。

【日 時】第1回(12月26日)、第2回(2月26日)、第3回(3月26日)

【場 所】千歳市

【主 催】社団法人千歳青年会議所・千歳市・札幌土木現業所・札幌開発建設部



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-12

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『J8サミット2008千歳支笏湖 記念カクテルレシピづくり』

【内 容】社団法人千歳青年会議所では、社団法人日本バーテンダー協会札幌支部千歳地区と連携し、J8サミット2008千歳支笏湖を記念したオフィシャルカクテル（申請中）のレシピづくりを行い、第30回支笏湖氷濤祭り特設ブース（氷のバー）にて試飲会を実施。

【日 時】平成20年2月10日(日)

【場 所】支笏湖氷濤祭り会場

【主 催】社団法人 千歳青年会議所

【協 力】支笏湖祭り実行委員会

【参加人数】300名



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-13

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『J8サミット2008千歳支笏湖 記念カクテルレシピづくり』

【内 容】57回目を迎える支笏湖湖水まつりのプログラムのひとつとして、支笏湖に沈む美しい夕日を背景に景色と音楽を楽しむコンサートを開催。美しい旋律が聴衆を魅了し、地元小学生を含む踊りの輪が広がる

【日 時】平成19年7月28日（土）18:30～19:15

【場 所】千歳市支笏湖温泉（湖畔特設ステージ）

【主 催】NPO法人支笏湖まちづくり機構Neoステージ

【協 力】支笏湖祭り実行委員会

【参加人数】約200名



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-14

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『支笏湖シーニックシャトルバスの試行』

【内 容】地元住民がガイドとして同乗し、地元ならではの情報を提供しながら、支笏湖周辺の見所を巡るシャトルバスの運行。1日2便運行し、温泉入浴や登山などを楽しめる。

今年で3年目の運行となり、昨年より300円運賃を引き上げ試行した。

【日 時】平成19年8月23日（木）・24日（金）・25日（土）

9月15日（土）・16日（日）・22日（土）・23日（日）

10月15日（月）・16日（火）・17日（水）

【場 所】支笏湖畔→丸駒温泉→オコタンペ湖→樽前山七合目→王子第一発電所→休暇村野鳥の森

【主 催】NPO法人支笏湖まちづくり機構Neoステージ

【協 力】支笏湖温泉旅館組合・支笏湖商工会、中央バス、株式会社シービーツアーズ、

【延べ利用者】約180名



支笏洞爺ニセコルート《ウェルカム北海道エリア》

SW-15

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

ウェルカム北海道エリア
ホームページでのイベント紹介及び活動報告

- 【内 容】・昨年より、メンバーが書き込み可能なブログタイプヘルニューアル。
・平成19年度においてはイベント告知や活動報告などの情報を発信。
・エリア会議など内部の情報共有のためのツールとしての活用が課題。

【日 時】平成19年度

【主 催】ウェルカム北海道エリア代表者会議



支笏洞爺ニセコルート《ウェルカム北海道エリア》

SW-16

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

Scenic Night 2008 ~灯りが繋ぐ雪の道

- 【内 容】千歳から恵庭、支笏湖、洞爺湖、ニセコ羊蹄山麓を結ぶ「支笏洞爺ニセコルート」で、一斉点灯日を設け、あかりで雪の道をつなぐ、幻想的な美しい空間を作り出した。

ルート展開より3年目を迎え、地域のイベントとして定着しつつある。

【日 時】平成20年1月26日（土）・2月9日（土）（17:00～21:00）

【場 所】千歳アウトレットモールレラ、支笏湖温泉、洞爺湖温泉、各市街地（恵庭市、喜茂別町、京極町、倶知安町、ニセコ町、蘭越町）、各スキー場（グラン・ヒラフ、東山、アンヌプリ、ニセコモイワ、ルスツリゾート）、ホテル甘露の森、真狩温泉、真狩スノーモンターリングランド、各道の駅（花ロードスパ、ニセコヒューバラザ、望羊中山、そらべつサムズ）

【主 催】シニックナイツ2008実行委員会

【後 援】北海道開発局札幌開発建設部、北海道開発局小樽開発建設部、北海道開発局室蘭開発建設部

【協 力】石狩支庁、後志支庁、胆振支庁、（有中）シニックハイウェイ支援センター、後志観光連盟、社団法人千歳観光連盟、恵庭市、恵庭観光協会、千歳市、洞爺湖町、虻田郡、特定非営利活動法人そぞろ軽音楽協会、社団法人洞爺湖温泉観光協会、倶知安観光協会、倶知安町、ニセコ町、蘭越町、京極町、喜茂別町、留寿都町、真狩村、ニセコリゾート観光協会、支笏洞爺ニセコルート行政連絡会議

【協 賛】北海道コカラボトリング、NTT DoCoMo、グラビラフ、ニセコアルエース、NISEDA、協賛企業各社



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-17

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

Scenic Night 2008 『恵庭キャンドルナイト』

【内 容】2年目を迎える、市内の企業、学校、町内会、市民団体に参加を呼びかけ、道の駅「花ロードえにわ」をメイン会場に国道36号線バイパスやえこりん村、黄金フラワーロードをキャンドルで彩った。コミュニティFMによる一斉点灯や、観光協会と連携したキャンドルナイトコンサートを開催。
☆支笏洞爺ニセコルート「シニックナイト」として位置づけられた連携事業です。

【日 時】平成20年1月26日（土） 点灯17：00～20：00
【場 所】道と川の駅「花ロードえにわ」、えこりん村、国道36号線バイパス、黄金フラワーロード
【主 催】えにわシニックプロジェクト 【共 催】恵庭観光協会
【協 力】恵庭観光協会、北海道ハイテクノロジー専門学校、北海道文教大学、恵庭北高校、黄金北町内会、島松鳴子まつり、恵庭夢創、花のまちづくり推進協議会、花いっぱい文化協会、ブルームーン、シボラ、市職員労働組合、市消防、テクノパーク友交会、札幌地区トラック協会恵庭支部、えこりん村



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-18

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

Scenic Night 2008 『支笏湖雪灯りの散歩道』

【内 容】支笏湖の自然豊かな冬とキャンドルの灯りがおりなす幻想的なひとときを観光客に楽しんでもらおうと、静かな支笏湖の夜に、地域住民が中心となり暖かなキャンドルを点灯。氷濤まつりの開催期間に合わせ、今年で3年目を迎える取り組み。
☆支笏洞爺ニセコルート「シニックナイト」として位置づけられた連携事業です。

【日 時】平成20年1月26日（土）～2月17日（日）の毎週土日（17：00～20：00）
【場 所】千歳市支笏湖温泉街
【主 催】NPO法人支笏湖まちづくり機構Neoステージ
【参加者】40名（NPO法人支笏湖まちづくり機構Neoステージメンバーと地域の方々）



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-19

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

ウィンターシーニック 『ルート間連携広報』

【内 容】雪や寒さなどの冬期資源を活用したイベントある、支笏洞爺ニセコルートの「シーニックナイト」と大雪・富良野ルートの「ウィンターサーカス」で連携した広報を展開。

“ウィンターシーニック”として、ポスター、チラシの作成や、携帯サイトにおける情報発信など、2ルート合同のプロモーション活動を行った。

【日 時】平成20年1月26日（土）～2月3日（日）

【場 所】支笏洞爺ニセコルート、大雪・富良野ルート

【主 催】シーニックナイト実行委員会・ウィンターサーカス実行委員会



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-20

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『しこつこグリーンマップ及び、支笏湖紹介パンフレットの多言語化』

【内 容】支笏湖を訪れた方を対象とした「グリーンマップ」及び、観光客等へ「支笏湖」紹介するパンフレットを多言語化（英語、中国語、ハングル）。今後、「支笏湖」という名称を表紙に記載したパンフレットとして、エリア内外で地域の魅力を広く発信していく。

【日 時】平成19年度

【場 所】千歳市支笏湖

【主 催】NPO法人支笏湖まちづくり機構Neoステージ

【製作物】多国語（日・中・韓・英）の観光マップ



※支笏湖グリーンマップ（日本語）



※支笏湖紹介パンフレット（中国語）

支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-21

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

ウェルカム北海道エリア周遊会議の参加

【内 容】行政連絡担当者会議を対象とした、エリアの周遊会議にオブザーバーとして参加。実際にガイドを務めるなど地域の活動紹介を行った他、冬期（観光シーズン以外）における地域資源を巡り、魅力や課題を共有。

【日 時】平成19年12月11日（火）9:30新千歳空港出発～15：00解散

【場 所】支笏洞爺ニセコルート_ウェルカム北海道エリア

【主 催】行政連絡担当者会議事務局

【協 力】社団法人千歳青年会議所、えにわシニックプロジェクト、支笏湖まちづくり機構Neoステージ



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-22

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

『シニックバイウェイパネル展～JC北海道地区大会』

【内 容】「社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 第56回北海道地区大会 千歳大会」の会場でシニックバイウェイ北海道パネルを展示したほか、フォーラムのパネルディスカッションにおいて、シニックバイウェイ北海道の取り組みを紹介。

【日 時】平成19年10月27日（土）

【場 所】千歳市民文化センター

【主 催】社団法人日本青年会議所 【主 幹】社団法人千歳青年会議所

【参加者】700名



支笏洞爺ニセコルート《ウエルカム北海道エリア》

SW-23

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

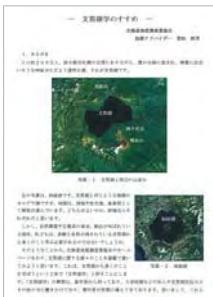
『支笏湖だいがく塾』

【内 容】支笏湖に住む一人ひとりが参加し、住むまちのすばらしさを知ることを目的とした地域の勉強会「支笏湖だいがく塾」を復活。北海道大学出身の若松幹男氏を招き地質学の観点から、噴火が近隣のまちをつくっていることや懐かしい昔の支笏湖について、講話をいただくとともに、懇親会を行い地域と交流を行った。

【日 時】平成19年6月11日（月）

【場 所】休暇村支笏湖

【主 催】NPO法人支笏湖まちづくり機構Neoステージ 【参加者】20名



1. ルート運営活動計画に関する地域の報告

・地域活動に関する報告(支笏洞爺ニセコルート:ウェルカム北海道エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:ウェルカム北海道エリア 代表 佐藤哲也	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	-------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
来訪者をもてなすウェルカムルートの創出	エリアインフォメーションシステムの検討	SW - 1	シニックバイウェイ情報拠点「えにわ市民プラザ・イル」内にシニック情報コーナーを開設	えにわシニックプロジェクト	平成19年度	-	・恵庭市民の憩い、学び、情報交流の場として誕生したコミュニティースペースに、シニックバイウェイ北海道の情報コーナーを開設。SCENEのバックナンバーや制度パンフレット等を設置し、市民への情報提供に努めた。 ・今後は、全道情報のみならず、エリアやルートの詳細情報を提供するなど、周遊につながるインフォメーション機能を検討する。	◇景観づくりの目標である、「北海道の玄関口にふさわしい美しい景観づくり」に向けて ・観光シーズン前の早朝清掃活動や、おもてなしの心を込めた空港アクセス沿道を彩る春と秋の植栽活動(花苗の越冬)等を継続して実施。学校、地域、企業、行政と徐々に活動の輪を広げ、定着しつつある。
		SW - 2	ルックルック調査隊	えにわシニックプロジェクト	平成19年度	-	・昨年に引き続き、「FMパンプキン」にて、隔週の水曜日15分間、恵庭の隠れた魅力にせまる番組を放送。恵庭の歴史やシニックの取り組みを情報発信し、エリアインフォメーション機能の一部を担う。 ・コミュニティFMとの連携を手がかりに、今後は、地域住民を巻き込んだ資源発掘やエリアとしてのインフォメーション機能を検討。	・また、平成19年12月には、エリアの景観について地域と行政と一緒に検討・情報共有する場として「景観検討会」を組織。次年度の植栽計画等について検討進めている。
			道と川の駅「花ロードえにわ」パネル展示	えにわシニックプロジェクト	平成19年度	-	・昨年に引き続き、道と川の駅花ロードえにわの休憩スペースに、シニックバイウェイ及び、ウェルカム北海道エリアを紹介するパネルを展示。 ・今後は、定期的な展示パネルの更新や、季節にあわせた展示内容など、魅力的な情報発信に努める。	・一方、玄関口にふさわしいエリアインフォメーション機能については、情報拠点の充実や、魅力的な資源発掘・周遊ルートの検討(裏街道53次)を進めておりエリアマップ等の作成を目指し、媒体や仕組みづくりに取り組んでいる。
	エリアマップの作成	SW - 3	ウェルカム北海道エリア「裏街道53次」	えにわシニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	12名	・昨年の「地域情報の収集」に続き、今年度は「地域情報を伝えるための手法」について検討。地域資源を魅力的に伝えるキャッチフレーズ、ブック型やポストカード型などの媒体デザインなど、意見交換を行った。 ・今後は、地域情報を蓄積する仕組みづくりや、事業の継続運営などを検討し完成を目指す。	・また、平成19年12月には、エリアの景観について地域と行政と一緒に検討・情報共有する場として「景観検討会」を組織。次年度の植栽計画等について検討進めている。
景観形成	支笏湖の湖面利用に関する規制		支笏湖の湖面利用に関する規制の検討	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成18年度(規制)	-	・活動団体の働きかけにより、平成18年度、環境省の規制により、自然環境や動植物の生息や生育環境の保全の為、支笏湖全域においてプレジャーボート等の乗り入れが禁止が実現された。 ・今年度は、監視という観点で、支笏湖を見守った。 ・引き続き、静かな支笏湖を守る監視を継続する。	・今後は、道以外の水辺や河川系の活動団体と連携をすすめ、眺望ポイントの整理を行うなど、地域で活躍されている他分野の方々へ活動の輪を広げていきたい。
	水辺の眺望ポイントの整理	SW - 3	ウェルカム北海道エリア「裏街道53次」で水辺を巡るルートについて試案	えにわシニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	-	・裏街道53次で提案するドライブルートの一つに、「近ごろ北海道の夏も何だか暑い。気持ちの良い水辺を、教えましょう。」として、水辺を巡るルートを試案するも、具体的な眺望ポイントの整理までは至らなかった。 ・今後、河川流域で活動している団体との連携を視野に入れ、エリアの特徴のひとつである支笏湖や茂庭川などの水辺の眺望ポイントについて整理を行う。	・今後は、道以外の水辺や河川系の活動団体と連携をすすめ、眺望ポイントの整理を行うなど、地域で活躍されている他分野の方々へ活動の輪を広げていきたい。
	北海道らしい清らかな水を印象づけるみちづくりの促進	SW - 4	453(ヨコサン)530(コミセロ)キャンペーン in支笏湖	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	5月30日(水)	90名	・国道453号において、春の観光シーズン前に清掃活動を実施。 ・平成16年より継続、昨年よりVSPを活用、支援体制と役割分担が明確化され、運営が円滑に行われるとともに、自然公園財団や支笏湖小学校(園地清掃)と連携し、参加人数は過去最多となった。 ・秋の活動は雨天のため中止となり、中止の際の連絡体制づくりなどが課題となつた。 ・今後は、ルートやエリアで清掃活動月間を設けるなど、効果的なPRを検討し、ゴミを捨てる人を減らしていく。	・今後も、協力団体として側面から活動を支援する。 ・協力事業について、どのように周知するか整理が必要。
	河川や湖面、沿道の清掃(*清掃活動の推進)	SW - 5	えにわ湖慈しみフェスタへ協力団体として参画	えにわシニックプロジェクト	7月21日(土)	約250名	・昨年に引き続き、漁川ダム周辺及び上流域で(道道恵庭岳公園線と国道453号交流地点の間)、水質浄化をはじめとする環境保全の取り組み「えにわ湖慈しみフェスタ」に、協力団体として参画、植栽・清掃活動を実施。 ・今後も、協力団体として側面から活動を支援する。	

ルート名称: 支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア) 報告者: ウエルカム北海道エリア 代表 佐藤哲也 報告年月: 2008/3/31

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:ウェルカム北海道エリア 代表 佐藤哲也	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	-------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
観光振興	周辺の田園地帯や水資源を活用した魅力づくり		-	えにわシニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	-	・裏街道53次の「地域資源の発掘」を手がかりとした連携を想定していくが、具体的な連携にいたらなかった。 引き続き、連携について検討していく。	◇観光振興の目標である「エリアの観光資源をつなぎだ周遊ルートの創出」に向けて ・地域ガイドが同乗するバスツアーや周遊シャトルバスを毎年継続して運行、エリアの企業見学や、地元産品の活用を盛り込むなど、地域と連携した魅力のPRを行い人気を集めている。 毎年、料金設定やメニューを工夫し採算性を高める工夫をしているが、引き続き、他機関と連携を図り、継続した活動を目指す。
		SW - 12	J8公式カクテル(申請中)を企画	社団法人 千歳青年会議所	平成20年2月10日(日)	300名	・来年、開催されるジュニアサミット(J8)を記念し、千歳にちなんだ3種類のオリジナル公式カクテル(申請中)を企画。支笏湖氷濤祭り会場にて、試飲をおこなった。	・地域ガイドが同乗するバスツアーや周遊シャトルバスを毎年継続して運行、エリアの企業見学や、地元産品の活用を盛り込むなど、地域と連携した魅力のPRを行い人気を集めている。 毎年、料金設定やメニューを工夫し採算性を高める工夫をしているが、引き続き、他機関と連携を図り、継続した活動を目指す。
	エリア企業との連携による魅力づくり	SW - 10	ツアーの立ち寄りポイントとして、企業の魅力を紹介	えにわシニックプロジェクト	10月14日(土)	44名	・「えこりん村のトマト栽培」や「サッポロビール工場」など、エリアの企業を地域資源という視点で、ツアーメニューに取り入れ紹介した。 ・引き続き連携を継続していくとともに、地域資源の活用や、環境配慮の視点など、同一の視点での連携をめざす。	・今年度は、エリアのホームページにてイベント情報を発信するとともに、活動ブログを公開し、活動の概要を紹介。イベント告知のみではなく、多様な側面から地域の魅力を伝える情報提供に努めた。
		SW - 18	企業と連携したイベントの開催(えにわキャンドルナイト)	えにわシニックプロジェクト	平成20年1月26日(土)	300名	・テクノパーク友好会やえこりん村など、地元企業と連携することで、バリエーション豊かな活動となった。 ・恵庭市外からの通勤者も多く、休日に参加可能な人員が限られるなど、企業と連携した活動を行う場合の課題があげられた。 ・今後は、開催日を早い時期に決定するなど、参加しやすい環境づくりを行う。	・ルート連携事業として、「シニックナイト」の取組が3年目を迎えて、当エリアにおいては、「恵庭キャンドルナイト」、「支笏湖雪灯りの散歩道」として、地域住民や学校、企業などへと連携が広がり、地域のイベントとして定着しつつある。今後も、ルート連携を図りつつ、より地域が参加しやすい取組となるよう、早期の開催スケジュール決定や運営体制、参加の仕組みづくりを進める。
	エリアの魅力を伝えるイベントなどの開催	SW - 13	サンセットコンサート・クリスマスイベントの開催	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	サンセットコンサート 7月28日(土) クリスマスイベント 12月	(サンセットコンサート) 200名	・支笏湖の夕日をバックに、景観と音楽を楽しむサンセットコンサート。 ・今年は、苫小牧出身の兄弟ユニット「K.D earth」によるアイヌ民族樂器で奏でられる音楽が集まった200人を魅了した。 ・クリスマスイベントは、主に商店街でのイルミネーションに留まった。 ・それぞれ、支笏湖の季節の魅力を伝えるイベントとして、継続していく。	
	エリアの周遊性を高めるしくみと情報発信	SW - 10	えにわいいとこどりツアー	えにわシニックプロジェクト	10月14日(土)	44名	・3年目を迎えて、定員を超えるほどの人気ツアー企画となった。 ・人、自然、企業などの市民からみた恵庭の魅力を紹介できた。 ・市民団体や市役所、観光協会などの協力が得られ内容の充実が図られた他、活動内容を理解していただく機会ともなった。 ・今後は継続して事業展開していく仕組みを検討することが課題。	
		SW - 14	支笏湖シニックシャトルバス	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年8月23日(木)・24日(金)・25日(土)・9月15日(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日)・10月15日(月)・16日(火)・17日(水)	180名	・3年目を迎えたことから、立ち寄りポイントの変更と飲み物付きの休憩タイムを設け、料金を昨年より300円の値上げし1500円と設定。支笏湖で滞在していただくよう、温泉や食事の割引サービス券を発行した。 ・乗車人数は約180名とやや減少。 ・支笏湖への宿泊滞在を目的として、温泉旅館組合より助成金を受けて運行しており、今後の継続運行については協議が必要。 ・団体として、魅力的なエリアガイドの育成に取り組むことも課題である。	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:ウェルカム北海道エリア 代表 佐藤哲也	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	-------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
エリアの周遊性を高めるしくみと情報発信	ホームページの作成	SW - 15	ウェルカム北海道エリア ホームページでのイベント紹介及び活動報告	えにわシニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	-	・昨年より、メンバーが書き込み可能なブログタイプヘルニアール。 ・平成19年度においてはイベント告知や活動報告などの情報を発信。 ・エリア会議など内部の情報共有のためのツールとしての活用が課題。 ・各団体で情報発信担当を決めるなど、イベント告知の他、日常の地域の様子など、地元にいる特性を活かした情報発信に努める	
	エリアの周遊の検討	SW - 3	ウェルカム北海道エリア「裏街道53次」におけるおすすめルートの試案	えにわシニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	-	・昨年より、新たな観光ルートを創出し、エリアの周遊性を高める取り組みとして裏街道53次事業に取り組む。 ・検討の中で、地域の魅力ポイントをつなぎ、エリアの良さを感じながら周遊できるルートを試案。 ・今後も引き続き、地域資源の発掘を進めながら、周遊性を高めるルートづくりに取り組んでいく。	
	トレジャーハント等の実施		ドライブマップ2007に、トレジャーハントのクイズを提供	えにわシニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	-	・支援センター発行のドライブマップへの情報提供として、世界に2つしかないと言われる「ジョンレノンの碑」、かつては映画館が存在するまでに栄えた「千歳鉱山株式会社跡地」を題材としたクイズを提供することで、隠れた地域資源の周知を図った。 ・今後も引き続き、支援センターと連携し、シニックならではの地域おすすめの隠れた魅力を発信する。	
観光振興	ルートを対象としたイベントの企画・実施(シニックナイト～灯りが繋ぐ雪のみち～)	SW - 17	シニックナイト2008～灯りが繋ぐ雪のみち	支笏洞爺ニセコルート	1月26日(土) 2月9日(土)	(エリアのみ) 320名	・ルートの連携事業として展開してから今回で3回目となり、各エリアにおいて地域のイベントとして定着しつつある。 ・年々、回を重ねる毎にシニックナイトへの参加地域の拡大と地域ごとの個性的な取り組みが実施されるなど連携活動が活発化し、参加者も増加傾向にある。 ・一方、参加の仕組みが各地域で異なることから、活動周知など、ルート全体で行うもの、各エリアで実施するものなど、役割を明確にする必要がある。	
		SW - 18	えにわキャンドルナイト	えにわシニックプロジェクト	1月26日(土)	300名	・今年で2年目の開催。昨年は、他事業と合同の開催であったが、今年は、学校、企業、住民等が連携し、単独で開催。 ・患庭観光協会が主催し、キャンドルコンサートが開催されるなど、他の機関と連携した取り組みとなり、好評を得た。	
		SW - 19	支笏湖 雪灯りの散歩道	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	1月26日(土)～2月17日(日)の、土、日	20名	・氷濤祭り期間中の毎週土日に、キャンドルを灯す雪灯りの散歩道は、継続して3年を迎える。地域住民が中心となりデザイン案の検討が行われるなど、地域が一体となった取り組みとして定着しつつある。	
			* 本年度は実施なし	-	-	-	-	
	ルートを対象としたツアーアー等の企画・実施		雪と灯りをテーマとしたルートプロモーション(シニックナイトにおける情報発信)	支笏洞爺ニセコルート	12月～2月上旬	-	・雪と灯りをテーマとした、シニックナイトの取り組みにおいて、ポスター、チラシの作成や、ホームページにおける情報発信など、ルートとしてのプロモーション活動を行った。 ・また、冬期資源を活用したイベントとして、大雪・富良野ルートのウィンターサーカスと連携した広報を展開し、周知の輪を広げた。 ・今後は、花植えや清掃活動など、テーマを徐々に増やし、連携を強化していく。	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:ウェルカム北海道エリア 代表 佐藤哲也	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	-------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
地域資源の発掘と保全活用	支笏湖タウンマップの作成		しここグリーンマップ及び、支笏湖紹介パンフレットの多言語化	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	-	・支笏湖を訪れた方を対象とした「グリーンマップ」を多言語化(英語、中国語、ハングル) ・今後、増刷する際の印刷費用などの確保が必要 ・マップを活かして、各内外へ地域の魅力を広く発信していく。	△地域づくりの目標である「地域住民による地域資源の再発見と地域資源の活用による文化と産業の醸成」に向けて ・地域と行政が実際に現地を訪れるエリア周遊会議を開催し、地域資源の魅力と課題を共有。今後も、それぞれが役割を担う地域づくりに努める。
	旧ユースホステルの保全・活用		【変更】歴史や文化資源も含めた地域資源の発掘と活用	えにわシニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	-	・平成19年4月より、日本ユースホステル協会の直営の管理となった。 ・平成20年度より、ルート運営活動計画の記載は、旧ユースホステルに限定せず、エリア全体へ視点を広げ「歴史・文化資源の発掘と活用」へ変更。 ・支笏湖以外の千歳、恵庭も含め、大切にしていきたい地域の歴史的建造物や地域文化の発掘調査や活用に努める。	・策定から3年を経たルート運営活動計画において、「旧ユースホステルの保全・活用」との記載から、エリア全体へ取組の視野を広げることを目的とし記載内容を「歴史や文化資源も含めた地域資源の発掘と活用」へ変更。今後も、エリアの運営状況を鑑み適宜対応した取組を行う。
	タウンウォッチングなどによる地域資源の発掘	SW - 21	ウェルカム北海道エリア周遊会議の参加	えにわシニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	-	・行政連絡担当者会議を対象とした、エリアの周遊会議にオブザーバとして参加。冬期(観光シーズン以外)における地域資源を巡り、魅力や課題を共有。 ・今後も、季節に応じた地域資源の魅力など、実際に現地を訪れ調査を行う。	19
地域づくり	地域ブランド化の検討		花のまち恵庭のPR	えにわシニックプロジェクト	平成19年度	-	・次年度より、全日空の旅行プラン「感動案内人」に恵庭のガーデニングを見学するツアーが加わることとなった。恵庭観光協会が請負い、花ガイドやガーデナーを紹介する仕組み。 ・独自事業での展開を視野に、ツアーノウハウなどを学ぶ ・恵庭市では、市内で開催されている幾つかの花イベントを集約し、観光客も楽しめる魅力的なイベントとすることを目指しており、団体として協力する。	・地域のブランド化やコミュニティビジネスの創出においては、恵庭の「花」への注目や支笏湖の「ヒメマス」の漁業権獲得、バスツアーでの人気の定着等、前進しつつあるが、ビジネスとしての採算性の確保まではいっていない。ビジネス的な視点と地域づくりとしての視点のバランスを考慮しつつ、持続可能な運営を目指し引き続き取組を進める。
			支笏湖のヒメマスの活用	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度	-	・平成19年11月支笏湖にて漁業協働組合が設立。平成20年3月1日に共同漁業権免許の取得と遊漁規則が認可。この6月より、ヒメマス漁が有料(一日800円)となる。これまで、支笏湖のヒメマスは限られた量しか地元で味わうことができなかつた為、これらが改善されるとの期待があり、今後、引き続き、活用に努める。	・「支笏湖いがく塾」の復活や「恵庭キャンドルナイトの反省会」など、各地域で地域を学ぶ場や交流の場ができる。今後は、エリアやルートを視野にいたる学びや交流の場を増やしていく。 ・環境への配慮について、シャトルバス等CO2削減に寄与する取組を継続。昨今の社会情勢も踏まえ、各活動においても配慮を心がける。
	手づくり品・オリジナルポストカードの制作		* 今年度の制作は無し 裏街道53次における情報発信媒体として、ポストカードについて検討	-	-	-	・今年度は、制作無し。 ・裏街道53次の情報発信媒体として、ポストカードの検討をおこなった。 ・ポストカードについては、引き続き、裏街道53次にあわせて制作を検討する。地域資源を活用した手作り品についても取り組む。	
	コミュニティビジネス研究	SW - 10 14	地域ガイドと巡る周遊バス・バスツアーの試行(支笏湖シニックシャトルバス・えにわいいとこどりツアー)	支笏湖まちづくり機構NEOステージ・えにわシニックプロジェクト	平成19年度	-	・各地域でバスツアー及び、周遊バスを継続して運行。人気も高く、徐々に収益を挙げているものの、地域ボランティアによる運営が魅力の一つとなっていることから、ビジネスとして展開を行う場合、人材や資金確保等の課題がある。 ・引き続き、地域のニーズを捉えつつ、コミュニティビジネスの展開を模索する。	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:ウェルカム北海道エリア 代表 佐藤哲也	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	-------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
交流と連携による地域づくりの推進	子ども・住民向け文化事業の推進と活動参加のしきみづくり	S W - 17	えにわキヤンドルナイトにて、コミュニティFMを活用した参加の呼びかけ及び、活動実施後の反省会の開催	えにわシニックプロジェクト	1月26日	-	・昨年に引き続き、地元の小中学校、専門学校、大学、企業など、組織単位での参加を呼びかけると共に、コミュニティFM放送と連携し、キヤンドル点灯のカウントダウンを行うなど、地域住民へ広く活動の参加を呼びかけた。 ・沢山の方が参加し、団体間の交流の場ともなった。 ・引き続き、地域住民が参加しやすい仕組みに努める。	
	各研修会などの開催	S W - 22	社団法人北海道青年会議所(北海道地区大会)千歳大会にてシニックバイウェイ北海道を紹介 (シニックバイウェイ北海道パネル展示 など周知活動の実施)	社団法人 千歳青年会議所	平成19年10月27日(土)	約700名	・『自らのまちは自らでつくり上げる』といった市民意識の変革と明るい豊かなまちづくりの推進・実践へむけた大会を開催。パネルディスカッション「立国は私なり！自らが創る北海道」では、シニックバイウェイ北海道の創成期に活躍された北海道開発局函館開発建設部次長 和泉晶裕氏にパネリストとして参加いただいた。 ・会場内にシニックバイウェイバースを設置し取組のPRをおこなった。	
	タウンミーティングの開催	S W - 23	支笏湖だいがく塾	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年6月11日(月)	20名	・支笏湖に住む一人ひとりが参加し、住むまちのすばらしさを知ることを目的とした地域の勉強会「支笏湖だいがく塾」を復活。北海道大学出身の若狭幹男氏を招き地質学の観点から、噴火が近隣のまちをつくっていることや懐かしい昔の支笏湖について、講話をいただくとともに、懇親会を行い地域と交流を行った。 ・勉強会を復活したもの、複数回の実施にはいたらなかった。今後も引き続き継続し、楽しみながら地域を知る機会とする。	
「環境」の視点を取り入れた自然公園地域づくりの推進	CO2削減	S W - 14	観光エリアを周遊するシャトルバスの試行 (支笏湖シニックシャトルバス)	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年8月23日(木)・24日(金)・25日(土)・9月15日(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日)・10月15日(月)・16日(火)・17日(水)	180名	・地域でゆったり過ごす滞在型の観光を楽しんでもらおうと、地元ガイドとともに巡るシャトルバスを運行、今年で3年目を迎える。 ・公共交通の無い支笏湖周辺において、自家用車から乗り換え可能な交通手段の提案としてCO2の削減に配慮した活動を実践している。 ・イベント等における環境への配慮が課題となっている。	
	自然環境学習・教育プログラム	7 S W - 8 9	・ 小学校と連携した一年を通じた植栽活動(ここからはじまる北海道～千歳ウェルカム花ロードver.5)	社団法人 千歳青年会議所	春の植栽 5月24日(木) 秋のプランター設置 9月20日(木) 21日(金) 越冬プロジェクト 11月30日(金)	春の植栽 700名 秋のプランター設置 170名 越冬プロジェクト 70名	・小学校の花壇を利用し花苗の越冬に挑戦し、春から秋にかけての花育成を経て、沿道を飾るという季節にあわせた植栽プロセスを子ども達と一緒に取り組むことで、地域の自然環境に关心を深める機会となつた。 ・今後は、北海道の植生を踏まえた花苗選びや、花苗を種から育てるなども含め、引き続き、担い手である子ども達へ地域や自然環境への愛着を醸成に努める。	

2. ルート運営活動計画に関する行政の報告

・行政の事業に関する報告(支笏洞爺ニセコルート: ウエルカム北海道エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:札幌開発建設部	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	-------------	----------------

基本方針	平成19年度の活動内容	実施機関	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
景観づくり	来訪者をもてなすウェルカムルートの創出	・道路情報版を活用した、「シニックバイウェイ支笏洞爺ニセコルート」のPR	・札幌開発建設部、小樽開発建設部、室蘭開発建設部	平成18年度～平成19年度	-	・支笏洞爺ニセコルート内の国道において、道路情報版を活用し、「シニックバイウェイ支笏洞爺ニセコルート」のPRを実施
		・道と川の駅「花ロードえにわ」内、「おらがまち自慢フェア」におけるシニックパネル展示への協力	・札幌開発建設部 ・惠庭市	9月22日～24日	9名	・シニックの情報発信のため、活動団体が実施するシニック関連活動やルートの概要をパネルにて展示。 ・休憩所の展示スペースを提供
		・「道道恵庭岳公園線植えるかむ花ロード」の主催及び協力	・惠庭市	6月9日	-	・昨年に引き続き、活動団体、地域住民、千歳土木現業所と連携し、恵庭インターエンジより市街地に向かい中央分岐帯の植樹及び、雑草除去を実施 ・花苗等、物資の準備、運営を補助
	北海道らしい清らかな水を印象づけるみちづくりの促進	・北海道札幌土木現業所千歳出張所				・昨年に引き続き、ふれあいのまちクリーン事業として助成。3カ年限定の事業であり、次年度、最終年を迎えることから、継続にむけた検討が必要。
		・「えにわ慈しみフェスタ」のゴミの処理及び、運営支援	・恵庭市	7月21日	-	・道道恵庭岳公園線(漁川ダム周辺より、国道453号との交流地点までの清掃活動及び、植栽活動において、ゴミ処理及び、運営を支援。
		・「453・530(ヨゴサン・ゴミセロ)キャンペーン」のゴミ処理、清掃用具の提供等	・千歳市 ・札幌開発建設部 千歳道路事務所 ・支笏湖自然保護官事務所	5月30日	20名	・ボランティア・サポートプログラムに(VSP)により、ゴミ処理を支援 ・VSP手続きの他、活動運営等をサポート ・人的支援として、清掃活動に参加 ・ボランティア・サポートプログラムを導入、清掃用具を提供。 ・人的支援として、清掃活動に参加 ・人的支援として、清掃活動に参加 ・今後、環境の日や自然公園クリーンデイとの清掃活動の連携も考えられる
		・千歳ウエルカム花ロードver.5」の共催及び、運営支援	・千歳市 ・札幌開発建設部 ・千歳道路事務所	5月24日 9月20・21日 11月30日	春の植栽 48名 秋のプランター設置 4名 越冬チャレンジ 3名	【春の植栽】 ・平成15年より、事前準備及び当日の運営支援、植栽時の散水車等を協力。 ・平成19年度は主催者として参加。 ・市内全小学校への取り組み周知、及び、一般参加者の参加受付を担当。 【秋のプランター設置】 ・人的支援として、小学校と連携した植栽、越冬チャレンジの取り組みを実施。 ・花の越冬場所の提供(緑の課花壇) =小学校の参加を求める場合調整が必要な事項が多い為、早い段階からの集情報共有や検討が望まれる ・地域協働プロジェクトとして、同取り組みを共催。 ・地域活動団体と連携し、小学校と連携した植栽、越冬チャレンジの取り組みを実施。 ・越冬場所の提供(千歳道路事務所花壇) ・ボランティアサポートプログラムにより、国道36号の植樹マスへの植栽を実施。 ・道道千歳インター線において、同取り組みを共催。 一般参加の呼びかけとして、ホームページヘチラシを掲載。 ・植栽後の維持管理が課題(小学生や地域との連携を考えたいが、安全面の問題があり難しい。現在も、月1回実施しており、行政側の対応としては限界という状況)

	基本方針	平成19年度の活動内容	実施機関	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
景観づくり	花とみどりによる四季の感じられる景観形成	・支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり	・石狩森林管理署	平成17年度～平成19年度	-	<ul style="list-style-type: none"> セブン-イレブンみどりの基金と、北海道森林管理局・石狩森林管理署が協定を結び、台風被害にあった支笏湖周辺の森林を再生するため、行政・環境市民団体・企業・地域団体などから成る「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会」を設立。 市民が「森の育て親」になって100haの大地に10万本の植樹に協働して取り組む。 石狩森林管理署は、支笏湖周辺の風倒木被害地域である国有林を活動場所として提供し、森づくりの基本的な技術指導を行う。 	・恵庭市では、平成19年度に、景観形成基本方針(ガイドライン)・指針(ガイドライン)を策定(市街地や農村部の景観、国有林や緑の保全・利用、ビューポイントを設けるなど、景観を改善していくための方向性を検討)
	エリアの景観ルールづくり	・恵庭市において、景観形成基本計画を策定	・恵庭市	平成18年度～平成19年度	-		
		・国道36号 景観診断	・札幌開発建設部	平成15年～平成17年度	-	<ul style="list-style-type: none"> シニックバイウェイの基幹ルートとして指定されている、国道36号において、住民参加による景観診断を実施、平成17年度までに対象となっている区間について実施を終えた。 	
	看板や広告物の規制の検討	・シニックバイウェイルートにおいて、道路標識の集約を試行	・札幌開発建設部 ・千歳道路事務所	平成18年度～平成19年度	-	・国道453号において、視認性と景観の向上を目的とし、道路標識の集約化を試行。	
観光振興	周辺の田園地帯や水資源を活用した魅力づくり				-		
	エリアの魅力を伝えるイベントなどの開催	サンセットコンサート	・千歳市	平成19年8月	1名	・人的支援として、運営を補助	
	エリアの周遊性を高めるしきみと情報発信	・ホームページによる、シニックバイウェイ北海道及び、エリア活動のPR	・千歳市	平成19年度	-	<ul style="list-style-type: none"> 観光トピックにて、シニック活動の紹介を実施(8月シニックシャトルバス掲載) 千歳市ホームページトップページにおいて、11月にシニックバイウェイ北海道のバナーを掲載、活動を周知。 	<p>・今年度は、シニックバイウェイの周知を目的に、各機関のウェブサイトにおいて、バナー掲載及びリンク掲載に取り組み、地域への情報発信に努めた。</p> <p>・特に観光という視点では、石狩支庁で発行する観光ガイドマップへシニック情報を掲載した他、シニックの地域イベント情報として、広報や各機関のサイトでのトピック掲載、職員向けグループウェアでの情報提供など、様々ななかたちで情報周知が図られた。</p>
			・北海道札幌土木現業所千歳出張所	平成19年度	-	・札幌土木現業所ホームページトップページにおいて、シニックバイウェイ北海道のバナーを掲載し、活動を周知。	
			・石狩支庁	平成19年度	-	<ul style="list-style-type: none"> 石狩支庁トップページにて、シニックバイウェイ北海道のバナーを掲載し、活動を周知。 石狩管内観光ガイドマップへのシニック情報掲載(マップにエリアを記載、シニックのバナーを掲載し、活動を周知)。 	
			・札幌運輸支局	平成19年度	-	・札幌土木現業所ホームページトップページにおいて、シニックバイウェイ北海道のバナーを掲載し、活動を周知。	
			・環境省 北海道地方環境事務所 支笏湖自然保護官事務所	平成19年度	-	・環境省北海道地方環境事務所ホームページ関連リンクにおいて、シニックバイウェイ北海道を掲載し、活動を周知。	
			・札幌開発建設部 千歳道路事務所	平成19年度	-	・札幌開発建設部 千歳道路事務所ホームページの改訂にともない、シニックバイウェイ及びエリアの活動を周知するページを開設。	
	ルート連携によるふれあい観光の推進	・シニックナイト2008～灯りで繋ぐ雪の路」	・千歳市	平成19年度	-	<ul style="list-style-type: none"> 千歳市ホームページにて、ルート連携活動「シニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道～」の活動周知のための情報を掲載。取り組みの「後援」。 札幌土木現業所ホームページにて、ルート連携活動「シニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道～」の活動周知のための情報を掲載。事務所内で、シニックナイトの活動写真を展示。 	<p>・また、地域イベントへの人的支援や有志による個人サポーター参加など、各機関において活動支援が広がりつつある。</p>
			・北海道札幌土木現業所千歳出張所	平成19年度	-		
			・石狩支庁	平成19年度	-	・道庁職員専用グループウェア内にて、「シニックナイト」灯りが繋ぐ雪の道～」の活動周知のための情報を掲載。	
			・恵庭市	1月26日	-	・恵庭市広報誌において、恵庭キャンドルナイトの周知に協力。	
			・札幌開発建設部、小樽開発建設部、室蘭開発建設部	1月26日 2月9日	-	<ul style="list-style-type: none"> ルート連携活動「シニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道～」において、取り組みの「後援」及び、一斉記者発表など活動のPRを支援。 国道36号(恵庭バイパス)における除雪協力 職員有志が、個人サポーターとなり、取り組みを応援。 	
地域づくり	地域資源の発掘と保全活用	・「裏街道53次事業」地域の魅力発掘アンケートへの協力支援	・札幌開発建設部 千歳道路事務所	平成18年度～平成19年度	-	・昨年に引き続き、ウエルカム北海道エリア内の地域資源発掘アンケートをホームページへ掲載、調査への協力を呼びかけた。	・地域づくりとしては、情報発信やイベントの後援等の支援の他、植樹の協力など連携した取組が行われた。
	地域の資源を活かしたコミュニティビジネスの創出	・恵庭いいとこりツアーカーの記念植樹の準備協力及び周知	・恵庭市	10月14日	6名	<ul style="list-style-type: none"> いいとこりツアーカーでの植栽準備等を協力 市広報誌にツアーカーの案内を掲載 	
	交流と連携による地域づくりの推進	・社団法人北海道青年会議所(北海道地区大会)千歳大会を後援	・千歳市	平成19年10月26日～28日	-	・『自らのまちは自らでつくり上げる』といった市民意識の変革と明るい豊かなまちづくりの推進・実践へむけた大会を後援	

3. 地域及び行政の運営に関する報告

・支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:ウェルカム北海道エリア代表 佐藤哲也	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	------------------------	----------------

	基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営に 関わる事項	エリア運営 (事務局体制)	スケジュール調整など					会議の企画・運営／キャンペーンの企画・サポート								
	ルート連絡会議					◆7月20日 (ルート連絡会議 シニクナイト反省会)				◆11月17日 (ルート連絡会議)		◆1月22日 (ルート連絡会議)			
	エリア 代表者会議					●7月6日 (第1回エリア) 恵庭				●11月28日 (第2回エリア) 支笏湖	◎12月6日 エリア周遊会議 (地域・行政)		●3月14日 (第3回エリア) 千歳		
	検討会 勉強会など	■4月11日 ■4月17日 ■4月23日 (花ロード検討会)	★5月14日 (裏街道53次検討会) ■5月16日 (花ロード検討会)				★9月18日 (裏街道53次検討会)			■12月26日 (景観検討会)	■2月26日 (景観検討会)	■3月26日 (景観検討会)			

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:札幌開発建設部	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	-------------	----------------

	基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営に 関わる事項	行政連絡会議の実施					●7月6日 (第1回行政連絡担当者) 恵庭			◇16日 ◇17日 ◇22日 ◇24日 ◇26日 (連携会議)	◇9日 (連携会議)	●12月6日 (第2回行政連絡担当者) 支笏湖 ◎12月6日 エリア周遊会議 (地域・行政)			●3月26日 (第3回) 恵庭	

4. 審査委員会意見に関する報告

・支笏洞爺ニセコルート(ウエルカム北海道エリア)

ルート名称: 支笏洞爺ニセコルート(ウエルカム北海道エリア)	報告者: ウエルカム北海道エリア代表 佐藤哲也 / 札幌開発建設部	報告年月: 2008/3/31
--------------------------------	-----------------------------------	-----------------

	支笏洞爺ニセコルート運営代表者会議の報告	支笏洞爺ニセコルート行政連絡会議の報告	備考
シーニック バイウェイ ルート全体 に対する意 見	<p>景観への取り組み: 景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道道恵庭岳公園線、国道36号線から道道千歳インター線における植栽活動(恵庭岳公園線植えるかむフラワーロード、ここからはじまる北海道千歳ウェルカム花ロード.ver5)、国道453号における清掃活動(530・453(ゴミゼロ・ヨガサン)キャンペーン)を継続して実施。 ・コミュニティビジネス創出へ向け、恵庭、支笏湖それぞれで、お勧め景観ポイントなど地域資源を巡るバスツアー及び、周遊バスを継続して運行、料金設定を変更し、収益性を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恵庭岳公園線植えるかむフラワーロードを協働(恵庭市、札幌土木現業所千歳出張所)・ここからはじまる北海道千歳ウェルカム花ロード.ver5を千歳市、札幌開発建設部、札幌土木現業所が共催 ・国道453号において春の清掃活動(453・530キャンペーン)を支援 	
	<p>持続性の確保: 参加する各主体(国、道、市町村、活動団体、住民)による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植栽・清掃活動、バスツアー等、継続活動においては、VSPの活用や自治体、観光協会との連携など、継続した事業実施に向けて他機関との連携を強化している。 ・持続性を確保していくため、課題解決において専門的知識等が必要となることが予想されることから、今後、活動や成果に対するアドバイザーの確保が重要と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体の取り組みに対する相談窓口として、関連する各行政機関担当者名簿を作成・配布 ・さらなる地域との協働へ向け、行政連絡担当者会議事務局が、各構成機関を訪問し意見交換を行った。 	
	<p>地域特性の活用: 北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道ならではの冬を楽しむ取り組みとして、ルート連携事業として、「シニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道～」を継続するとともに、大雪・富良野ルートで展開している雪のランドアートプロジェクト「ウインターラーサーカス」と広報連携を行い、活動を広く周知。 ・次年度に開催されるサミットへ向け、地域情報の整理を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートが連携した「シニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道～」を後援。構成機関が連携し同時の記者発表や、ホームページによる活動周知などに取り組んだ。 	
	<p>ホスピタリティ向上: 研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支笏湖シニックシャトルバス、恵庭いいとこどりツアーでは、活動団体が地域ガイドとして乗車。支笏湖においては、かつて実施されていた地域の勉強会「支笏湖だいがく塾」を復活し、楽しみながら地域を学ぶ場を設けた。 	-	
	<p>全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウエルカム北海道エリアホームページにおいてイベント告知、活動報告を情報発信。支笏湖シニックシャトルバス、えにわいいとこどりツアーにおいては、旅行会社等と連携した取り組みを継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度、各機関サイトのトップページ等にシニックバイウェイサイトのバナー掲載を掲載。 ・北海道コカコーラ・ボトリングと連携し、千歳空港の到着ロビー自動販売機にてシニック映像を放映し、シニック及びルートのPRを行った。 	
	<p>開かれた運営体制: 繼続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植栽活動、清掃活動をはじめ、イベント等においても、シニックバイウェイ北海道活動団体以外の地域の方々と連携した取り組みに努めている他、コミュニティFMを通じた定期的な情報発信により活動を周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽活動、清掃活動をはじめ、イベント等においても、シニックバイウェイ北海道活動団体以外に、自治体や関連行政機関と連携した取り組みを実施。 	
	<p>既存観光地からの脱却を目指し、歴史・文化・レクリエーションなど幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度より、エリアが連携し、新千歳空港より、東千歳、恵庭の観光資源の発掘及び、それらポイントをつないだ新しい周遊ルートをつくろうという取り組みが開始。(裏街道53次事業) ・平成19年度においては、冊子やポストカードなど、情報伝達の媒体について検討。引き続き、完成を目指して取り組みをすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政連絡担当者会議メンバーによるエリアの周遊会議を開催。冬期(観光シーズン以外)における地域資源を巡り、魅力や課題を共有。 ・恵庭市において観光振興計画を策定。今後、連携し観光振興を目指す。 	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウエルカム北海道エリア)	報告者:ウエルカム北海道エリア代表 佐藤哲也 / 札幌開発建設部	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	----------------------------------	----------------

		支笏洞爺ニセコルート運営代表者会議の報告	支笏洞爺ニセコルート行政連絡会議の報告	備考
支笏洞爺ニセコルート	今後、3エリアがひとつのテーマでつながり、ブランド化されるため、一層連携した取り組みが必要であるとともに、十分な体制と支援が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続き、「シーニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道～」をルート連携により実施。実行委員会組織を立ち上げて、各エリアが連携した。 平成20年度からの新体制として、ルート代表及び、シーニックナイト事務局を各エリアが持ち回りで担当することを決定。 	<ul style="list-style-type: none"> 札幌開発建設部、小樽開発建設部、室蘭開発建設部、各エリアの行政事務局が集まり、情報交換・情報共有等を実施、ルート連携活動に対する情報共有・活動支援等について検討。 ルート連携活動「シーニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道」では、一斉記者発表等、活動のPRを行った。 	
	地域住民、旅行客が共有できるようなテーマ、ルート名(愛称含む)等の工夫が引き続き必要	<ul style="list-style-type: none"> 以前より、恵庭岳公園線における「植えるかむフラワーロード」、「ウエルカム」の気持ちをあらわす、「ここからはじまる北海道千歳ウエルカム花ロード.ver6」など、エリア名でもある「ウエルカム」という言葉がキーワードになりつつはあるが、地域の資源を繋ぐ周遊ルートの検討を行っており、それらとあわせ名称を検討していく。 	-	
	ウエルカム北海道エリアについて、市街地部の景観改善が本ルートの重要な役割を担うことから、景観意識の向上等に継続的に取り組んでいく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 現在は、景観づくりにおいて植栽活動や清掃活動が中心となっているが、平成19年度にエリア内で景観検討会を組織したところであり、今後、行政と連携し、景観改善等の取り組みを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ここからはじまる北海道千歳ウエルカム花ロードver5において、小学校と連携し、おもてなしの景観を彩る植栽活動と、それを継続的に取り組むための花の越冬を一連の景観づくりプログラムを活動団体と地域協働プロジェクトとして継続した取り組みを実施。 エリアの景観検討会において、地域と連携した景観改善の取り組みを進めていく。 	
	「食」文化について一層の取り組みを期待したい。	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年11月支笏湖にて漁業協働組合が設立。平成20年3月1日に共同漁業権免許の取得と遊漁規則が認可。この6月より、ヒメマス漁が有料(一日800円)となる。これまで、支笏湖のヒメマスは限られた量しか地元で味わうことができなかつた為、これらが改善されるとの期待があり、今後、引き続き、活用に努める。 	-	

5. 平成17年度活動報告への助言に対する状況報告

・支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)

資料 1-3

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウェルカム北海道エリア)	報告者:ウェルカム北海道エリア代表 佐藤哲也	報告年月:2008/3/31
-------------------------------	------------------------	----------------

平成18年度活動報告への助言	平成19年度 状況報告			備考
ルート代表者会議への助言	記載事項	現ルート運営計画	新規 記載事項	
○変動する社会情勢を踏まえつつ、ルート運営活動計画の更新を検討されたい。 ルート運営活動計画は各ルートにおける取り組みの基本となるものであることから、「急増する外国人観光の対応」や「地球環境への配慮」等の社会的要請を踏まえ、ルート運営活動計画に追加検討をする必要がある。併せて、各ルートにおいて抱える課題、目標、活動状況に応じて計画内容の更新、改訂などを行い、ルート全体での理念・活動指針を改めて明確化する必要があることを助言とする。	・エリア代表者の交代	社団法人千歳青年会議所 佐藤 哲也 (平成19年度 エリア代表)	えにわシニックプロジェクト 泉谷 清 (平成20年度エリア代表)	
	・ルート代表者の位置づけ変更	・各エリア代表が、ルート代表を兼任	・ルート代表を1名とし、各エリアの持ち回りとする。 (平成20年度はウェルカム北海道エリア) えにわシニックプロジェクト 泉谷 清 (平成20年度ルート代表)	
	◆地域づくりの方針と活動内容 『地域資源の発掘と保全活用』の活動内容について記載を変更	・「旧ユースホステルの保全・活用」	・「歴史や文化資源も含めた地域資源の発掘と活用」	* 旧ユースホステルに限定するのではなく、ウェルカム北海道エリアの歴史や文化資源の発掘と活用として、範囲を広げる。
行政連絡会議への助言				
○ルート運営の更なる充実に向け、各ルートの状況に応じて、行政連絡会議における積極的な取組を期待する 各ルートの活動において、既に拡大された取組や、今後の拡大が見込まれる取組を視野に入れ、ルートの状況に応じた行政連絡会議の構成機関追加の検討や、他ルートでの取組事例も参考にしながら、より積極的な取組を行う必要があることを助言とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度 ウェルカム北海道エリア行政担当者連絡会議では、各機関のホームページで「シニックバイウェイ北海道」のリンクを掲載 ・「シニックナイト2008」などの地域活動を各ホームページや広報などの媒体を活用し積極的にPR ・行政連絡担当者会議事務局が各構成機関を訪問、会議運営体制や協働の取組についての意見交換を実施 ・業務担当者における情報共有、地域課題の解決の場をして(担当者会議を3回程度開催) ・引き続き、各行政機関の名簿を作成し、相談窓口として活動団体へ配布する。 ・類似事業や施策について、連携して効果の高い事業や取組とする。 ・平成19年12月、地域と行政が一緒に検討する場として、景観検討会を組織。(3回の検討会を開催) 			

平成19年度
支笏洞爺ニセコルート活動報告
《洞爺湖エリア》

- O. 地域活動報告の概要
 - 1. ルート運営活動計画に関する地域の報告
 - 2. ルート運営活動計画に関する行政の報告
 - 3. 地域及び行政の運営に関する報告
 - 4. 審査委員会意見に関する報告

0. 地域活動報告の概要

- ・地域活動に関する報告(支笏洞爺ニセコルート:洞爺湖エリア)

ルート名称: 支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)

★: ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み

	基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度 地域活動(総括)
景観形成	洞爺湖に彩を添える	眺望ポイントの調査研究	S T - 1	<ul style="list-style-type: none"> ・当該エリアは、各種事業や取り組み(エコミュージアム、いぶり火山マイスター等)において地域ガイドの育成や発掘が積極的に行われており、地域ガイドとなる人材が豊富におり、ニーズに応じたツアーアテンダント等が可能である。今後はガイドの継承をいかに進めていくかが課題である。 ・虻田高校と地域が連携して清掃活動への参加や地域資源マップ・ホームページの作成等が行われている。教員と生徒、地域が交流を持った観光の実践的な取り組みだけに継続展開が期待される。
		サクラの植栽		
		洞爺湖畔の清掃・彫刻の管理		
	温泉街らしさを演出する	花と緑(紅葉する樹木)の植栽		
		洞爺湖温泉の花・プランター整備		
		湯煙のあるまちづくりの推進		
	果樹園などの田園景観を整える	温泉街のサインの統一	S T - 2	
		くだもの村の統一看板の設置		
		馬の歩く道景観づくり		
		花和地区的花壇整備		
		よごさん(453)キャンペーンの実施	S T - 3	
		花による沿道の演出		
	エリアの景観ルールづくり		S T - 4	
	看板やノボリの撤去		S T - 5	
地域づくり	エリアの資源の発掘と保全活用	エリアの資源の研究会の開催		<ul style="list-style-type: none"> ・当該エリアは、各種事業や取り組み(エコミュージアム、いぶり火山マイスター等)において地域ガイドの育成や発掘が積極的に行われており、地域ガイドとなる人材が豊富におり、ニーズに応じたツアーアテンダント等が可能である。今後はガイドの継承をいかに進めていくかが課題である。 ・虻田高校と地域が連携して清掃活動への参加や地域資源マップ・ホームページの作成等が行われている。教員と生徒、地域が交流を持った観光の実践的な取り組みだけに継続展開が期待される。
		地域資源マップの作成	S T - 6	
	エリアの産業の活性化	コミュニティビジネスの研究		
		地産地消の推進	S T - 7	
		保養型温泉観光の推進		
		体験型農業の推進		
	エリアの人材育成	NPO化に向けた研修会の開催		
		地元の学校と連携した活動の推進	S T - 8	
		エリア人材登録制度の検討	S T - 9	
観光振興	「もてなし」による洞爺湖エリアのイメージ向上	タウンミーティング・シニック塾の開催		<ul style="list-style-type: none"> ・北海道洞爺湖サミットの開催が決定してから、外国人に対するホスピタリティ向上がこれまで以上に強化されている。 ・民間企業とのタイアップ企画等も昨年から本格的に導入され、持続可能な運営に向けた新たな展開を見せ始めている。 ・また、シニックバイウェイ支援センターと共同企画による洞爺湖エリア内での各種ツアーにおいてカーボンオフセット型ツアーに取り組み始め、環境に対するニーズが高いことが明らかになった。 ・エリアの資源(洞爺湖、有珠山・昭和新山、地域人材)を活用した各種ツアーが企画・実施されており、エリア全体での取り組みに発展しつつある。 ・今後に向けて、従来のパッケージ型ツアーのみならず、来訪者にとって洞爺湖エリアでしか体験のできない付加価値のある観光メニューについて検討が進められている。
		温泉街ガイドブックの発行		
		おもてなしキャンペーンの実施		
	資源と人材を活かしたエコミュージアムの形成	シニックデッキの設置		
		フォトコンテストの開催		
		エコミュージアムガイドブックの発行		
		エコミュージアムツアーアの企画	S T - 10	
	洞爺湖エリアの観光サービス機能の充実	ターゲットを絞った散策・体験ツアーの企画運営	S T - 11	
		エリア人材バンクの設立		
		マップ・パンフレットの作成		
		物産展の開催		
		花和地区的花壇整備		
		ホームページやエリアマップなどでの情報発信		
	シニックバスツアーの企画・運行		S T - 3	
	エリアの資源を活用した複合ツアーの企画			
	イベントの企画・運営		S T - 12	
	人材育成のための研修会などの開催		S T - 13	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)

★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み

	基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度 地域活動(総括)
ルート及び エリア全域を 対象とした 取り組み		★ルートを対象としたイベントの企画・実施(シーニックナイト2008~灯りがつなぐ雪のみち~)	S T - 14	<ul style="list-style-type: none"> ・シーニックナイトの3エリアが連携した取り組みが3年目をむかえ、活動団体間において支笏洞爺ニセコルート連携事業としての意識が定着してきた。 ・今後はさらなる活動の周知や地域内外のサポーターを増やすべく、各種行政機関とも連携を強化していく必要がある。 ・特にカーボンオフセットの推進に関しては、行政機関の協力(用地提供、維持管理等)が必要不可欠であり、行政連絡会議等による協力呼びかけを今後も継続していく予定である。
		★エリア全域を対象とした「環境」に対する取り組みの推進～カーボンオフセットの推進～	S T - 15	

支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-1

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

虻田高校生による資源調査「眺望ポイントの調査研究」

【内 容】虻田高等学校が授業の一環として、美しい景観ポイントの抽出や写真撮影、コメント掲載等を行っている。その内容は、洞爺湖エリアのホームページにブログとして定期的にアップされている。洞爺湖エリアの資源を収集することにつながり、今後は地域資源マップの作成等に展開する予定。今後の展開方針について議論し、学校と地域がどのような形で連携していくかについての検討が必要。

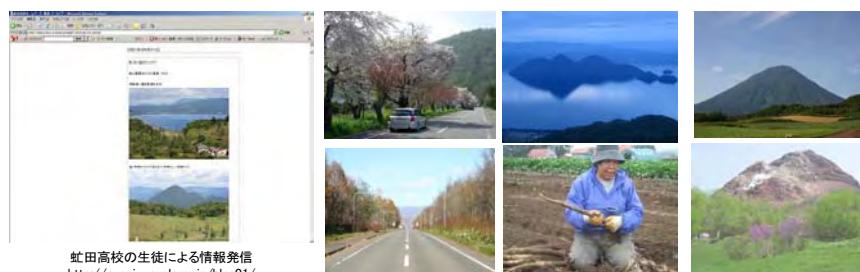
【日 時】平成19年度

【場 所】対象範囲：支笏洞爺ニセコルート

【主 催】ゆったリズム体験俱楽部、虻田高等学校観光学部

【協 力】室蘭開発建設部

【参加人数】20名（観光学部の生徒）



虻田高校の生徒による情報発信
<http://scenic-explorer.jp/blog01/>

支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-2

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

洞爺湖温泉まちづくり交付金事業を活用したウェルカム看板の設置

【内 容】洞爺湖温泉まちづくり交付金事業の一環として、行政機関と連携による検討を実施。

検討を進めていく上で、米国シニックバイウェイのウェルカム看板等を参考にしながら、景観に配慮し、地域住民が愛着の持てる看板デザインへ変更した。今後は、看板足元周りの植栽等、地域住民主体の維持管理等の仕組みづくりが必要。

【日 時】平成19年4月設置

【場 所】洞爺湖温泉街入口付近

【主 催】洞爺湖町観光案内整備実施検討協議会

【協 力】洞爺湖温泉観光協会、洞爺にぎわいネットワーク、洞爺湖町ほか

【参加人数】10名（検討委員会メンバー）



支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-3

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

国道よごさん（453）キャンペーンの実施

【内 容】今回で4回目の開催となり、130名の参加（うち、札幌圏からの参加：36名）により行われた。昨年に引き続き、札幌市のコミュニティ放送局の協力を得て札幌圏からも36名の参加者を募り、清掃活動をしながら環境を考えるツアーも行われた。また、今回は新たな試みとして、シーニックバイウェイ支援センターの協力のもと、カーボンオフセット型ツアーへ展開した。

【日 時】平成19年9月9日（日）9:00～16:00
【場 所】洞爺湖周辺（壮瞥町、洞爺湖町）
【主 催】国道よごさん(453)キャンペーン実行委員会
シーニックバイウェイ北海道支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリヤ代表者会議
【協 賛】(株)セイコーマート、JT日本たばこ産業㈱北海道支店、北海道コカ・コーラボトリング(株)
【参加人数】約130名（うち、36名が札幌圏からのバスツアー参加者）



支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-4

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

「洞爺湖エリヤ景観マスタープラン」の作成に向けた検討 (「洞爺湖エリヤ景観診療」等の実施)

【内 容】今年度は、「洞爺湖エリヤ景観マスタープラン（素案）」の作成に向け、景観分科会による検討のほか、現場を見ながらの意見交換として「景観診療調査」を地域と行政が協働で行った。現地で意見交換を行うことで、良いところや課題・改善点等、その場で共有できることで今後の取り組むべき方向性とそれぞれの役割分担が共有でき参加者からも好評だった。

【日 時】平成19年11月7日（金）10:00～16:00
【場 所】支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリヤ全域
【主 催】洞爺湖エリヤ代表者会議（景観分科会）
【協 力】洞爺湖エリヤ行政連絡会議
【参加人数】24名



左上) 室蘭民報
左下) 北海道新聞〔朝刊 財経版〕
右上) 読売新聞〔朝刊 全道版〕

支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-5

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

景観阻害看板診断並びに撤去実施調査
(民間集約看板の設置)

【内 容】過年度調査を継続し、景観阻害看板撤去の様々な方法等について検討を行い、看板所有者との合意が取れた看板については撤去する。また、平成19年4月、民間集約看板を試行的に設置。ロゴマーク設置に関し、看板の維持管理経費の捻出から、年額2万円の管理経費をいただくことで合意。（くだもの村と各企業との間で、協定を締結）企業からの協賛は特に宣伝に直結することから、各社とも好意的であり、地域活動団体の資金源調達の手法として有効。今年度は撤去に向けた検討、約30基の撤去に向けて所有者との交渉等を引き続き行っている。

【日 時】平成19年度（民間集約看板の設置は平成19年4月）

【場 所】壯瞥町字蟠渓 一般国道453号沿い

【主 催】そうべつくだもの村

【協 力】NPO法人そうべつ観光協会、そうべつエコミュージアム友の会 他



支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-6

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

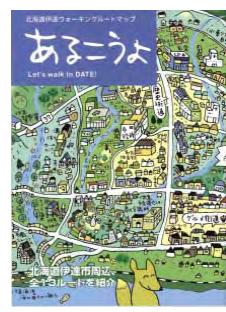
伊達市周辺ウォーキングルートマップ
「あるこうよ」、「ココカラマップ」の配布

【内 容】伊達商工会議所、大滝商工会の事業の一環で、北海道伊達ウォーキングルートマップ「あるこうよ」、「ココカラマップ」を作成。目的にあわせ様々に活用できる13ルートを紹介。利用者にとって使いやすい、広域としての活用を考え洞爺湖エリアの情報も掲載。また、掲載内容については、地域住民の意見を広く取り込んだ。

【日 時】平成19年度

【主 催】大滝レンジャーズ 他

【協 力】伊達商工会議所、大滝商工会



支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-7

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

シーニックカフェや活動団体が経営する飲食店での地産地消メニューの提供

【内 容】シーニックバイウェイの活動団体が経営するレストランや食堂等で地産地消メニューを提供している。シーニックバイウェイ支援センターが発行している季刊誌「SCENE」等でも紹介されている。
【日 時】通年（季節毎にメニューが異なる）
【場 所】ゆうもあ亭、シーニックカフェきつつきカナディアンクラブ ほか
【主 催】ゆったリズム体験俱楽部



ゆうもあ亭で提供する地産池消メニュー

きつつきカナディアンクラブで提供する地産池消メニュー

支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-8

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

地元の学校と連携した活動の推進

【内 容】虻田高等学校観光学部では、洞爺湖エリアホームページへのブログ掲載や地域の清掃活動、授業時間を活用した地域資源調査等を行った。次年度予定の観光イベントや地域住民活動への生徒や学生の参加や役割等について、虻田高等学校と連携した検討を進めている。

【日 時】平成19年度
【場 所】対象範囲：支笏洞爺ニセコルート
【主 催】ゆったリズム体験俱楽部、虻田高等学校観光学部
【協 力】室蘭開発建設部
【参加人数】20名（観光学部の生徒）



授業時間を活用した地域資源調査等の様子



課外授業での取り組み（洞爺湖温泉街の清掃活動）

支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-9

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

現地ガイド等の情報発信・提供による来訪者との交流

【内 容】地域ボランティアを対象とした参加者向けの情報発信・ガイドを10回程度実施。ボランティアガイドによって各種対応（視察対応、ツアーリング等）が行われ、参加者との交流の場を提供している。アンケート調査結果やヒアリング調査結果からみると、参加者は地元の方々とのふれあう機会が多くほど満足度が高くなっている。

【日 時】平成19年度

【場 所】支笏洞爺ニセコルート洞爺湖エリア全域（各種対応により異なる）

【主 催】洞爺湖エリア代表者会議



阿野 裕紀雄氏
(そうべつくだもの村)



田代 亮起氏
(NPO法人そうべつ観光協会)



小川 裕司氏
(ゆったリズム体験俱楽部)



三松 三朗氏
(そうべつエコロジーフラワーズ)



佐々木 卓一氏
(ゆったリズム体験俱楽部)



松山 皆巳氏
(そうべつエコロジーフラワーズ)

支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-10

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

昭和新山登山学習会

【内 容】そうべつエコミュージアム友の会が主催し、近隣や壮瞥町内のほか札幌等から50名が参加。40名募集に対し100名以上から申込みがあった。先着50名で実施。

火口の迫力や散策路、大有珠頂上からの眺望を楽しみながら、将来のトレッキングコース、ガイド事業のポイントを確認。有珠山への理解を深めた。

【日 時】平成19年5月12日（土）

【場 所】壮瞥町字昭和新山（集合場所 壮瞥町字昭和新山 三松正夫記念館）

【主 催】そうべつエコミュージアム友の会

コースガイド 三松三朗（そうべつエコ友の会代表・三松正夫記念館長）

【参加人数】50名



支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-11

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅

【内 容】シーニックバイウェイ支援センター主催による「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅の現地受け入れを洞爺湖エリア代表者会議で企画・協力した。事前では植樹場所に関する調整や会場設営、当日は各メニューのサポートや参加者との意見交換会等に参加し、翌日のオプショナルツアーの現地ガイド等も対応した。

【日 時】平成19年10月27日（土）～10月28日（日）

【場 所】支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリア全域

【企 画】シーニックバイウェイ支援センター、洞爺湖エリア代表者会議

【実 施】普門エンタープライズ株式会社

【協 力】株式会社NTTドコモ北海道、株式会社トヨタレンタリース札幌

【参加人数】17名



支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-12

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

民間企業等との連携促進

【内 容】持続可能な運営体制の構築、運営資金の捻出等に向けて、民間企業等への協力依頼・協働によるタイアップ等の働きかけを行った。

企業メリットに応じた各種物品提供を頂くなど、連携体制の構築に向けて新たなアプローチの一つとなった。

【日 時】平成19年度

【主 催】国道よごさん（453）キャンペーン実行委員会

【協 力】株式会社らむれす（三角山放送局）

【協 賛】株式会社セイコーマート、日本たばこ産業株式会社、
北海道コカ・コーラボトリング株式会社



株式会社らむれす
(三角山放送局)

株式会社セイコーマート

日本たばこ産業株式会社

北海道コカ・コーラボトリング
株式会社

支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-13

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

いぶり火山マイスター フォーラムの開催

【内 容】洞爺湖や有珠火山地域の自然や特性について正確な知識を有する者に「洞爺湖有珠火山マイスター」という「地域限定の称号」を与え、次なる噴火に備えた地域防災のリーダーとして育成し、地域防災力の向上を図るとともに、平時においては貴重な地域資源である洞爺湖や有珠火山地域での質の高い火山ガイドとして、特色ある観光地づくりにも活かす。

【日 時】平成20年2月29日（金）

【主 催】胆振支庁

【協 力】洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会、

そうべつエコミュージアム友の会、ゆったリズム体験俱楽部 ほか

【参加人数】80名



基調講演
北海道大学名誉教授 岡田 弘氏

座談会
「火山マイスターについて考える」

会場の様子

支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-14

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

支笏洞爺ニセコルートをつなぐ「シーニックナイト2008」

【内 容】洞爺湖エリアが今回のシーニックナイト2008実行委員会事務局としての役割を担い、他エリアとの連携・調整を図った。

前回に引き続き、シーニックナイトで参加地域の拡大と地域ごとの個性的な取り組みが実施されるなど連携活動が活発化。

サミットに絡めたエコを呼びかける取り組みなど、新たな展開を見出すことができた。

【日 時】平成20年1月26日（土）、2月9日（土）

【場 所】道の駅「そうべつ情報館 i（アイ）」

【主 催】シーニックナイト2008実行委員会

【協 力】壮瞥町商工会青年部 ほか

【参加人数】140名



支笏洞爺ニセコルート《洞爺湖エリア》

ST-15

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

洞爺湖エリアカーボンオフセット型ツアーの現地受け入れ

【内 容】・洞爺湖エリア代表者会議等が主催するカーボンオフセット型ツアーが1本「国道よごさんキャンペーン」、シーニックバイウェイ支援センターが主催するツアーに協力したのが2本「月浦ワインとそうべつくだもの村を訪ねる旅」、「2008サミット開催地「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅」が洞爺湖エリアにて行われた。

・各ツアーにてそれぞれ町有地（洞爺湖町、壮瞥町）、民地に二酸化炭素を吸収する植樹が参加者の手で行われた。

・今後もシーニックの森構想に沿った形で環境にも優しく来訪者をもてなす取り組みを進める予定。

【日 時】平成19年度 ①9月9日（日） ②10月3日（水） ③10月27日（土）

【場 所】①洞爺湖町有地 ②グリーンステイ洞爺湖 ③壮瞥町町有地

【協 力】洞爺湖エリア代表者会議、洞爺湖町、壮瞥町 ほか

【参加人数】80名



国道よごさんキャンペーン



月浦ワインとそべつくだもの村
を訪ねる旅



「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅

1. ルート運営活動計画に関する地域の報告

・地域活動に関する報告(支笏洞爺ニセコルート:洞爺湖エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリア代表 阿野 裕紀緒	報告年月:2008/3/31
--------------------------	--------------------------------	----------------

★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成18年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
洞爺湖に彩を添える	眺望ポイントの調査研究	S T - 1	虻田高校生による資源調査	ゆつたりズム体験倶楽部 虻田高等学校観光学科 生徒他	平成19年度	—	・虻田高等学校が授業の一環として、美しい景観ポイントの抽出や写真撮影、コメント掲載等を行っている。 ・その内容は、洞爺湖エリアのホームページにログとして定期的にアップされている。 ・洞爺湖エリアの資源を収集することにつながり、今後は地域資源マップの作成等に展開する予定。 ・今後の展開方針について議論し、学校と地域がどのような形で連携していくかについての検討が必要。	
	サクラの植栽	「MOVE 洞爺湖 2007」	洞爺湖温泉観光協会 洞爺にぎわいネットワーク ほか	平成19年4月29日	300名	・有珠山噴火の被災にあつた洞爺湖温泉の復興支援と清掃活動を目的とし、当日は300名を超えるボランティア参加者によって、洞爺湖岸の清掃活動、花壇整備や街路樹の植樹などを行った。		・エリア全体の取り組みとして「景観づくり」が過年度から継続検討・実施してきた。 ・今年度も景観阻害看板についてエリア内の4市町を対象範囲として、撤去要望を公募し件の申し込みがあり、その全てを撤去いた。 ・今年度は、洞爺湖エリア代表者会議及び行政連絡会議が共催した形で「景観診療調査(景観づくり重点箇所の現地調査)」が実施され、地域活動団体と行政が現場で意見交換を行うことができた。 ・その結果、これまでの景観診断結果や意見交換会、各種セミナー等をふまえた形での行政版の「(仮称)景観マスター プラン」が策定された。 ・今後は、行政の各種事業との整合や協働体制の構築を図るべく、「洞爺湖エリア景観マスター プラン」の実現を目指すとともに、行政版の「(仮称)景観マスター プラン」について検討を進める予定。
	洞爺湖畔の清掃・彫刻の管理							
	花と緑(紅葉する樹木)の植栽		『シニック花壇の整備(駐車帯の綠化活動)』	洞爺にぎわいネットワーク 洞爺湖温泉観光協会	平成19年6月、 平成19年10月	20名	・国道230号沿いの駐車帯(洞爺湖町入口付近)にVSPを活用し活動団体の方が種から育てて3種類のマリーゴールドを植栽。 ・観光客を温かく迎えることを目的として、植栽後も定期的に活動団体が中心となり、草刈や水まきなどの維持活動を行っている。 ・綺麗にすることでポイ捨て等が減り、昨年以上にゴミが目立たなくなってきた。	
温泉街らしさを演出する	洞爺湖温泉の花・プランター整備		西山火口周辺の花壇整備	洞爺にぎわいネットワーク	平成19年度	20名	・来訪者に対するホスピタリティの一つとして、西山火口周辺に花壇を設置。 ・約30名のボランティアの方々によって整備された。	
	湯煙のあるまちづくりの推進		スタンブラー・洞爺湖温泉手湯物語Ⅱ	洞爺湖温泉観光協会	継続実施中	—	・洞爺湖町洞爺湖温泉の手湯4カ所を巡るスタンブラー。 ・毎年2月に抽選し、地場産品やオリジナル風呂おけなどの景品をプレゼント。	
	温泉街のサインの統一	S T - 2	洞爺湖温泉まちづくり交付金事業を活用したウェルカム看板の設置	洞爺湖温泉観光協会 洞爺にぎわいネットワーク ほか	平成19年4月	—	・洞爺湖温泉まちづくり交付金事業の一環として、行政機関と連携による検討を実施。 ・検討を進めていく上で、米国シニックパウウェイのウェルカム看板等を参考にしながら、景観に配慮し、地域住民が愛着の持てる看板デザインへ変更した。	
景観形成	くだもの村の統一看板の設置		過年度実施済み	そうべつくだもの村 NPO法人そうべつ観光協会 ほか	—	—	・そうべつくだもの村の統一看板の設置については、平成15年度に実施されており、引き続き、「のぼり」や看板等のあり方について検討を進めている。 ・「(仮称)くだもの村景観協定」の策定に向け、検討を継続している。	
	馬の歩く道景観づくり		ホーストレッキング	大滝レンジャーズ	平成19年度 (年10回)	—	・札幌圏からの日帰り観光客をターゲットとした、「通常メニュー(60分・120分コース)」「ランチパック」「宿泊パック」等を実施。 ・東京ポスター(北湯沢登山拠点とする温泉・乗馬パック)の実施・3泊4日 120,000円。5~6名。	
	花和地区的花壇整備		実施せず	洞爺湖温泉観光協会	—	—	・今年度は、シニック花壇整備を主な綠化活動としたため、花和地区については実施しなかった。 ・今後実施の有無については、再度検討を行う。	
	果樹園などの田園景観を整える	S T - 3	国道よごさん(453)キャンペーンの実施	そうべつくだもの村 壮瞥町観光協会 エコミュージアム友の会 ほか	平成19年9月9日	約130名 (うち、36名が札幌圏からのバスツアー参加者)	・今回で4回目の開催となり、130名の参加(うち、札幌圏からの参加:36名)により行われた。 ・昨年に引き続き、札幌市のコミュニティ放送局の協力を得て札幌圏からも36名の参加者を募り、清掃活動をしながら環境を考えるツアーホーへ展開した。 ・また、今回は新たに試みとして、シニックハイウェイ支援センターの協力のもと、カーポンセッテ型ツアーホーへ展開した。 ・協賛企業も昨年度の3社から1社増え、計4社による協力体制を得ることができた。 ・新たに環境をキーワードとした取り組みに発展させ、そのニーズが確認できたことで、エコミュージアムの展開も視野に入ることができた。 ・ただし、その場合の料金設定や地元の受け入れ態勢等、採算ベースにのせるための検討が必要である。	
	花による沿道の演出							
エリアの景観ルールづくり			沿道美化活動	そうべつくだもの村 壮瞥町観光協会 ほか	平成19年度	30名	・国道453号沿いの清掃活動やプランター設置等の花による沿道美化活動が町内会単位、個人単位で自主的に実施されている。	
	「洞爺湖エリア景観マスター プラン」の作成に向けた検討(「洞爺湖エリア景観診療」等の実施)	S T - 4	洞爺湖エリア代表者会議 景観分科会	継続検討中 (景観診療調査は 11/7実施)	24名	・昨年度、洞爺湖エリア代表者会議内に景観分科会が設立され、洞爺湖エリアの景観についての議論が引き続き交わされた。 ・今年度は、「洞爺湖エリア景観マスター プラン(案)」の作成に向け、景観分科会による検討のほか、現場を見ながらの意見交換として「景観診療調査」を地域と行政が協働で行った。 ・現地で議論を行うことで、良いところや課題・改善点等、その場で共有できることで今後の取り組むべき方向性とそれぞれの役割分担が共有でき参加者からも好評だった。		
看板やノボリの撤去		S T - 5	景観阻害看板診断並びに撤去実施調査(民間集約看板の設置)	そうべつくだもの村 NPO法人そうべつ観光協会 そうべつエコミュージアム友の会 他	継続検討中	—	・過年度調査を継続し、景観阻害看板撤去の様々な方法等について検討を行い、看板所有者との会話を取れた看板については撤去する。 ・また、平成19年4月、民間集約看板を試行的に設置。 ・ロゴマーク設置に関して、看板の維持管理経費の捻出から、年額2万円の管理経費をいたぐことで合意(くだもの村と企業との間で、協定を締結)。 ・企業からの協賛は特に宣伝に貢献することから、各社とも好意的であり、地域活動団体の資金源調達の手法として有効。 ・今年度は撤去に向けた検討、約30基の撤去に向けて所有者との交渉等を引き続き行っている。	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリア代表 阿野 裕紀緒	報告年月:2008/3/31
--------------------------	--------------------------------	----------------

★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成18年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
エリアの資源の発掘と保全活用	エリアの資源の研究会の開催		エリア代表者会議及び景観分科会等による検討	エリア全体	平成19年度	—	・エリア代表者会議及び景観分科会により、洞爺湖エリアの資源及びその活用法などについて議論を重ねた。 ・今後も引き続き検討を行い、出来ることから実践していくことを予定している。	
	地域資源マップの作成	S T - 6	伊達市周辺ウォーキングルートマップ「あるこうよ」、「ココカラマップ」の配布	大滝レンジャーズ 他	平成19年度	—	・伊達商工会議所、大滝商工会の事業の一環で、北海道伊達ウォーキングルートマップ「あるこうよ」、「ココカラマップ」を作成。 ・目的:あわせ様々に活用できる13ルートを紹介。 ・利用者にとって使いやすい、広域としての活用を考え洞爺湖エリアの情報も掲載。また、掲載内容については、地域住民の意見を広く取り込んだ。	
地域づくり	コミュニティビジネスの研究		国道よごさん(453)キャンペーンでの試行的実施	そうべつくだもの村 壮瞥町観光協会 エコミュージアム友の会 ほか	平成19年9月9日	36名	・新たに環境をキーワードとした取り組みに発展させ、そのニーズが確認できたことで、コミュニティビジネスの展開も視野に入れることができた。 ・ただし、その場合の料金設定や地元の受け入れ態勢等、採算ベースにのせるための検討が必要である。	・当該エリアは、各種事業や取り組み(エコミュージアム、いぶり火山マイスター等)において地域ガイドの育成や発掘が積極的に行われており、地域ガイドとなる人が豊富におり、ニーズに応じたツアーアシスタント等が可能である。今後はガイドの継承をいかに進めていくかが課題である。 ・虹田高校と地域が連携して情報活動への参加や地域資源マップ・ホームページの作成等が行われている。教員と生徒、地域が交流を持つた観光の実践的な取り組みだけに継続展開が期待される。
	地産地消の推進	S T - 7	シーニックカフェや活動団体が経営する飲食店での地産地消メニューの提供	ゆったリズム体験俱楽部 ほか	平成19年度	—	・シーニックバイウェイの活動団体が経営するレストランや食堂等で地産地消メニューを提供している。シーニックバイウェイ支援センターが発行している季刊誌「SCENE」でも紹介されている。	
	保養型温泉観光の推進		健康保養型観光の推進	洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会 そうべつ観光協会 他	平成19年度	—	・伊達市・壮瞥町健康保養型観光推進協議会が主体となって「健康促進型の温泉活用と食事法」に関する実験を実施。	
	体験型農業の推進		壮瞥町移住体験ツアー募集事業	そうべつくだもの村 NPO法人そうべつ観光協会 胆振支店	平成19年度	—	・農業に興味のある都市市民を対象として壮瞥町移住体験ツアーを実施、そうべつくだもの村等が受け入れ先として実施している。	
	地元の学校と連携した活動の推進	S T - 8	地元の学校と連携した活動の推進	ゆったリズム体験俱楽部	継続検討中	—	・平成19年度虹田高等学校観光学部では、洞爺湖エリアホームページへのブログ掲載や地域の清掃活動、授業時間を利用した地域資源調査等を行った。 ・次年度予定の観光イベントや地域住民活動への生徒や学生の参加や役割等について、虹田高等学校と連携した検討を進めている。	
エリアの人材育成	エリア人材登録制度の検討	S T - 9	現地ガイド等の情報発信・提供による来訪者との交流	そうべつエコミュージアム友の会、ゆったリズム体験俱楽部 他	平成19年度	—	・地域ボランティアを対象とした参加者向けの情報発信・ガイドを10回程度実施。 ・ボランティアガイドによって各種対応(視察対応、ツアー対応等)が行われ、参加者との交流の場を提供している。 ・アンケート調査結果やヒアリング調査結果からみると、参加者は地元の方々とのふれあう機会が多くは多いほど満足度が高くなっている。	
	タウンミーティング・シニック塾の開催		ジオパーク(世界地質遺産)とエコミュージアムに関する講演会	主 催:洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会 (伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町) 後 援:室蘭開発建設部、北海道森林管理局、環境省、胆振支厅	平成20年1月18日	約50名	洞爺湖～有珠山周辺の地域の方々にジオパークをもっと知らうため、講演会を開催。当地域では、エコミュージアム(自然博物館)構想が推進されているため、地域の方々の关心も高く、参加した地域住民からは、大変参考になったと好評を頂いた。また、あらためてジオパークの目的とエコミュージアムの取り組みが共通すること、ジオパークに向けて地域の連携が重要であることが認識された。	
「もてなし」による洞爺湖エリアのイメージ向上	温泉街ガイドブックの発行		温泉街ガイドブックの発行に向けた情報収集とホームページの試行開設	ゆったリズム体験俱楽部	平成19年度	—	・地域住民が主体に参加できる地域と密着した鮮度の高い情報収集・提供を目指し、虹田高校とも協力し現在情報収集中。 ・虹田高校事務情報科の生徒が作成した洞爺湖温泉の飲食店のホームページ(HP)が実際に採用となり、試行的運用が始まった。クラス29人が実在の店のHPを作成するユニークな試みが1つの形となった。 ・教員と生徒、地域が交流を持つた観光の実践的な取り組みだけに継続展開が期待される。	
	おもてなしキャンペーンの実施		観光誘致キャンペーン「有珠山・洞爺湖周辺観光情報説明会」	(社)洞爺湖温泉観光協会 NPO法人そうべつ観光協会	平成19年4月9日～4月11日	約200名	・訪問先のホテルを説明会場とし、旅行エージェントを招き、有珠山噴火遺構などが見学できる洞爺湖温泉や昭和新山観光の魅力をPR。さらに洞爺湖周辺でのカヌー体験、酪農体験、アイスクリーム作り、バター作り、果樹園作業などの修学旅行メニューを紹介。	
	シニックデッキの設置		ひまわりカフェ開設に向けた検討	そうべつくだもの村 NPO法人そうべつ観光協会 エコミュージアム友の会	平成19年度	—	・これまでのエリア代表者会議や景観分科会等で挙げられた景観ポイントにおいて、カフェ機能を持たせることのできる場所について検討を進めてきた。 ・その結果、平成20年度、NPO法人そうべつ観光協会が所有する「ひまわり畑」を活用しシニックデッキの試行設置を行うこととなった。	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリア代表 阿野 裕紀緒	報告年月:2008/3/31
--------------------------	--------------------------------	----------------

★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成18年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
資源と人材を活かしたエコミュージアムの形成	フォトコンテストの開催		実施せず	洞爺にぎわいネットワーク	—	—	・フォトコンテストのあり方についての検討(これまでの応募作品の利活用等)が行われ、今年度は実施しないこととした。	
	エコミュージアムガイドブックの発行		ホームページ等によるWeb情報媒体を活用した情報提供	洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会他	平成19年度	—	紙媒体での情報発信はもとより、エコミュージアム推進協議会ではホームページによる情報受発信や会員を対象としたメールリスト等を積極的に活用。そのため、タイムラグの少ない情報共有が可能となっている。	・北海道洞爺湖サミットの開催が決定し、外国人に対するホスピタリティ向上がこれまで以上に強化されている。 ・民間企業とのタイアップ企画等も昨年から本格的に導入され、持続可能な運営に向けた新たな展開を見せ始めている。 ・また、シニックバイウェイ支援センターと共同企画による洞爺湖エリア内の各種ツアーやカーポンオフセット型ツアーや取り組み始め、環境に対するニーズが高いことが明らかになった。 ・エリアの資源(洞爺湖、有珠山・昭和新山、地域人材)を活用した各種ツアーや企画・実施されており、エリア全体での取り組みに発展しつつある。
	エコミュージアムツアーアの企画	S T - 10	昭和新山登山学習会	そうべつエコミュージアム友の会	平成19年5月12日	50名	そうべつエコミュージアム友の会が主催、近隣や仕管町内から50名が参加。40名募集に対し100名以上から申込みがあった。先着50名で実施。 火口の迫力や散策路、大有珠頂上からの眺望を楽しみながら、将来のトレッキングコース、ガイド事業のポイントを確認。有珠山への理解を深めた。	
	ターゲットを絞った散策・体験ツアーアの企画運営	S T - 11	「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅 (主催:シニックバイウェイ支援センター)	企画:シニックバイウェイ支援センター、洞爺湖エコミュージアム代表者会議	平成19年10月27日～28日	17名	シニックバイウェイ支援センター主催による「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅の現地受け入れを洞爺湖エコミュージアム代表者会議で協力した。事前では植樹場所に関する調整や会場設営、当日は各メニューのサポートや参加者との意見交換会等に参加し、翌日のオプショナルツアーアの現地ガイド等も対応した。	
	エリア人材バンクの設立		エリア人材バンクの設立	そうべつくだもの村NPO法人そうべつ観光協会 洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会他	平成19年度	—	・地域ボランティアを対象とした来訪者向けの情報発信・ガイド事業を10回実施。 ・今後は、胆振支庁と連携した「いぶり火山マイスター制度」の検討も実施予定。	
洞爺湖エリアの観光サービス機能の充実	マップ・パンフレットの作成		洞爺湖マップの作成 (多言語対応観光パンフ)	洞爺湖温泉観光協会	平成19年度	—	・英語、中国語、韓国語で表記した新しい觀光パンフレットを作成。 ・洞爺湖温泉の温泉、宿泊施設、飲食などを案内するマップ、洞爺湖周辺の観光スポット、夏観光、冬観光の楽しみ方が一目で分かる紹介コーナーも設置。 ・英語版2万部、中国語版1万部、韓国語版1万部を印刷。同協会と洞爺湖周辺の各施設に置くほか、海外プロモーションの配布資料としても活用。	
	物産展の開催		第31回そうべつりんご祭りの開催	そうべつくだもの村NPO法人そうべつ観光協会	平成19年10月7日	2,000名	・毎年秋に、そうべつりんご祭り等のイベント等によって、体験型農業の推進を行っている。例年約2,000人の来場者が訪れる地域にとって大きなイベントとなっている。	
	ホームページやエリアマップなどでの情報発信		各種メディアによる情報発信	ゆったリズム体験俱楽部 大滝レンジャーズ他	継続中	—	・虹田高校生徒や各団体ごとにによるホームページを活用して情報提供を行っている。 ・今後は地域住民が主体に参加できる地域と密着した鮮度の高い情報収集・提供とエリア全体の取り組みとしての展開を目指す。	
シニックバスツアーの企画・運行	S T - 3	国道よござんキャンペーンバスツアーの実施	国道よござんキャンペーん実行委員会	国道よござんキャンペーん実行委員会	平成19年9月9日	36名	・“秋の453キャンペーンとエコミュージアムバスツアー”が好評だったので、今後はエリア全体としての資源を活用したツアーア等の企画を検討中。	
エリアの資源を活用した複合ツアーアの企画	S T - 11	「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅 (主催:シニックバイウェイ支援センター)	企画:シニックバイウェイ支援センター、洞爺湖エコミュージアム代表者会議	企画:シニックバイウェイ支援センター、洞爺湖エコミュージアム代表者会議	平成19年10月27日～28日	17名	シニックバイウェイ支援センター主催による「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅の現地受け入れを洞爺湖エコミュージアム代表者会議で協力した。事前では植樹場所に関する調整や会場設営、当日は各メニューのサポートや参加者との意見交換会等に参加し、翌日のオプショナルツアーアの現地ガイド等も対応した。	
イベントの企画・運営		北海道洞爺湖サミット開催記念グッズ販売	(社)洞爺湖温泉観光協会	(社)洞爺湖温泉観光協会	平成19年度	—	・北海道洞爺湖サミットを盛り上げていくためサミットグッズの販売を開始。 ・環境サミットを盛り上げる「エコバッグ(1個:525円)」や「eco-yu Tシャツ(1枚:2,100円)」を環境への取り組みの働きかけを行っている。	
	S T - 12	民間企業等との連携促進	国道よござんキャンペーん実行委員会	国道よござんキャンペーん実行委員会	平成19年度	—	・持続可能な運営体制の構築、運営資金の捻出等に向けて、民間企業への協力依頼・協働によるタイアップ等の動きかけを行った。 ・企業メリットに応じて各種物品提供を頂くなど、連携体制の構築に向けて新たなアプローチの一つとなった。	
人材育成のための研修会などの開催	S T - 13	いぶり火山マイスター「オーラム」の開催	洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会 そうべつエコミュージアム友の会 ゆったリズム体験俱楽部ほか	洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会 そうべつエコミュージアム友の会 ゆったリズム体験俱楽部ほか	平成20年2月29日	約80名	洞爺湖や有珠火山地域の自然や特性について正確な知識を有する者に「洞爺湖有珠火山マイスター」という地域限定の称号を与え、次なる噴火に備えた地域防災のリーダーとして育成し、地域防災力の向上を図るとともに、平時ににおいては貴重な地域資源である洞爺湖や有珠火山地域での質の高い火山ガイドとして、特色ある観光づくりにも活かす。	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリア代表 阿野 裕紀緒	報告年月:2008/3/31
--------------------------	--------------------------------	----------------

★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成18年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
ルート及びエリア全域を対象とした取り組み	★ルートを対象としたイベントの企画・実施 (シーニックナイト2008～灯りがつなぐ雪のみち～)	S T - 14	支笏洞爺ニセコルートをつなぐ 「シーニックナイト2008」	シーニックナイト2008実行委員会	平成20年1月26日 平成20年2月9日	約140名	<ul style="list-style-type: none"> ・洞爺湖エリアが今回のシーニックナイト2008実行委員会事務局としての役割を担い、他エリアとの連携・調整を図った。 ・前回に引き続き、シーニックナイトで参加地域の拡大と地域ごとの個性的な取り組みが実施されるなど連携活動が活発化。 ・サミットに絡めたエコを呼びかける取り組みなど、新たな展開を見出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シーニックナイトの3エリアが連携した取り組みが3年目をむかえ、活動団体間において支笏洞爺ニセコルート連携事業としての意識が定着してきた。 ・今後はさらなる活動の周知や地域内外のサポーターを増やすべく、各種行政機関とも連携を強化していく必要がある。 ・特に(仮称)シーニックの森づくりの推進に関しては、行政機関の協力(用地提供、維持管理等)が必要不可欠であり、行政連絡会議等による協力呼びかけを今後も継続していく予定である。
	★エリア全域を対象とした 「環境」に対する取り組みの推進 ～カーボンオフセットの推進～	S T - 15	洞爺湖エリアカーボンオフセット型 ツアーの現地受け入れ	洞爺湖エリア代表者会議	平成19年度	約80名	<ul style="list-style-type: none"> ・洞爺湖エリア代表者会議等が主催するカーボンオフセット型ツアーが1本「国道よごさんキャンベーン」、シーニックバイウェイ支援センターが主催するツアーに協力したのが2本「月浦ワインとそうべつだもの村を訪ねる旅」、「2008サミット開催地「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅」が洞爺湖エリアにて行われた。 ・各ツアーにてそれぞれ町有地(洞爺湖町、杜鵑町)、民地に二酸化炭素を吸収する植樹が参加者の手で行われた。 ・今後も(仮称)シーニックの森構想に沿った形で環境にも優しく来訪者をもてなす取り組みを進める予定。 	

■ルート運営活動計画に関する行政の報告

・行政の事業に関する報告(支笏洞爺ニセコルート)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア) 報告者:室蘭開発建設部						報告年月:2008/3/31	
基本方針	平成19年度の活動内容	関係機関	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括	
景観形成	洞爺湖に彩を添える (実施区間 L=60m)	担当事務所:有珠復旧事務所 協力自治体:洞爺湖町	平成19年6月、10月	約30名	活動内容:花植え・管理・除草・清掃 課題:活動継続に向けた仕組みの検討が必要。	活動継続に向けた花苗の育成や参加人員の確保等	
	温泉街らしさを演出する ビューポイントパーキングとばへの登録	洞爺湖町 室蘭開発建設部 室蘭土木現業所	平成18年度から継続 平成19年度	— —	平成18年度の検討委員会にて設置看板の検討が行われ、壮瞥町側から洞爺湖温泉入口にウェルカム看板が設置された。 景観の優れた駐車場を有し、観光客で賑わっている道央自動車道有珠山SA(伊達市)が一般投稿により認定された。	看板足元周りの植栽等、地域住民と協働した形での維持管理等の仕組みづくりが必要。 「とるば」標識が設置され、既存駐車場に附加值値がつき、地域住民への周知も図ることが出来た。	
	果樹園などの田園景観を整える 国道よごさん(453)キャンペーンへの支援	室蘭開発建設部、有珠復旧事務所(VSP等の支援、活動参加・協力)、室蘭土現(作業車の提供)、洞爺湖町	平成19年9月9日	札幌圏36名 (全体で150名)	持続可能な運営体制の構築に向け、参加呼びかけ等的支援による協力体制の強化を図った。	活動を継続していくことで、各機関ごとの役割分担が明確になっておりスムーズな運営につながっている。	
	エリアの景観ルールづくり	洞爺湖エリア景観診療の実施 (エリア代表者会議と併用開催)	洞爺湖エリア行政連絡会議	平成19年11月7日	24名	過年度の検討結果をふまえ、景観重点ポイントの11箇所を地域活動団体と一緒に現地で意見交換することができ、今後の方向性やそれぞれの役割分担が共有できた。	
	看板やノボリの撤去	廃屋(旧洞爺マザー牧場)の撤去	洞爺湖町	平成19年10月16日	—	懸案のマザー牧場の解体については、町が敷地周辺を買い取り緑地として整備する予定。年度内に解体を終え、その後は具体的なことは未定であるが、駐車場や望羊広場等を計画中。	
	修学旅行生による洞爺湖中島の遊歩道整備	北海道森林管理局 後志森林管理署	平成19年9月12日	約50名	滋賀県大津市の瀬田工業高校の修学旅行生が洞爺湖中島の国有林内にある遊歩道にワッドチップを敷く歩道整備を実施。	点在している管内のアウトドア業者等のネットワーク化、胆振型のアウトドア体験メニューを検討し、モデル的に実施することにより、リビーターによるアウトドア人口の拡大を通じた新たな体験型観光の振興を図る。	
環境保全	「洞爺湖中島の特定外来種ウチダザリガニ駆除」 (グリーンワーカー事業)	環境省北海道地方環境事務所 洞爺湖自然保護官事務所	平成19年度	—	野生生物保護・保全(外来種対策)事業として、子どもパークレンジャー事業と連携した環境教育や防除体制の検討やウチダザリガニの捕獲及び生息域調査を実施。	環境省による駆除は昨年12月から行われており、昨年度は約1300匹、今年度はこれまで約6,700匹を捕獲しており、今後も地道な駆除作業を継続し、対策を講じていく予定。	
	エリアの産業の活性化	いぶり産業観光ブランド推進事業	胆振支庁 商工労働観光課	平成19年度	—	昨年度に引き続き、温泉郷を行動拠点とした「産業と観光」を連携させた産業観光の推進体制を確立し、胆振独自の観光ブランドの向上を図り、道内外からの誘客と滞在化を促進する。	平成19年度までの継続事業。
	エリアの人材育成	いぶり火山マイスターフォーラムの実施	胆振支庁、伊達市、洞爺湖町、壮瞥町	平成20年2月29日	約80名	洞爺湖や有珠火山地域の自然や特性について正確な知識を有する者に「洞爺湖有珠火山マイスター」という「地域限定の称号」を与える、次なる噴火に備えた地域防災のリーダーとして育成し、地域防災力の向上を図るとともに、平時においては貴重な地域資源である洞爺湖や有珠火山地域での質の高い火山ガイドとして、特色ある観光地づくりにも活かす。	世代を超えて噴火の記憶を引き継いでいくことが大切。また、そのためには、文書や画像などの過去を記録したツールも必要。こうした場面でも火山マイスターの活躍に期待できる。パンフレットや看板など、有珠山に対するいろんな間違いや誤解がある。これからは、世界に通用する「ハイスタンダード」を目指して欲しい。そのためには、地域に暮らす人が自ら考えることが大切。

観光振興	「もてなし」による洞爺湖エリアのイメージ向上	道路情報板によるルート名(支笏洞爺ニセコルート)の表示	室蘭開発建設部	平成19年度	—	昨年度から継続して道路情報板を活用してルート名を表示したことで、地域活動団体の方々から「活動に対するモチベーションが上がった」と高評価を得た。	今後も引き続き実施予定。また、ニセコ羊蹄エリアで試験的に実施予定のルート表示サインの導入についても検討を進める。
	資源と人材を活かしたエコミュージアムの形成	ジオパーク(世界地質遺産)とエコミュージアムに関する講演会	主 催:洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会(伊達市、豊浦町、壯瞥町、洞爺湖町) 後 援:室蘭開発建設部、北海道森林管理局、環境省、胆振支庁	平成20年1月18日	約50名	当地域では、エコミュージアム(自然博物館)構想が推進されているため、地域の方々の关心も高く、参加した地域住民からは、大変参考になったと好評を頂いた。	ジオパークの構想とエコミュージアムの取り組みが共通すること、ジオパークに向けて地域の連携が重要であることが認識された。
	洞爺湖エリアの観光サービス機能の充実	「北海道観光プロモーション」の実施	西胆振戦略的観光推進協議会 室蘭運輸支局 胆振支庁 商工労働観光課	平成19年度	約200名 (各100名ずつ)	管内観光の振興や観光産業と地場産業の連携推進など。海外プロモーション及び海外エージェント等の招聘事業、修学旅行誘致事業等の実施。平成19年7月9日から5泊6日でタイピングガボールを訪問し、「北海道観光プロモーション」を実施。2つの国で開催した観光プロモーションは、いずれも100人を超える地元の旅行代理店関係者が参加。	今後も継続し、アジア圏(中国、シンガポール、タイ(予定))を中心とした誘致の他、修学旅行誘致事業等の実施を展開する。西胆振ブロックや北海道が一丸となって取り組むことが重要。個々が充実することで、全体の魅力が向上すると考えられる。
		各機関のホームページへシニックバイウェイ支援センターのバナー掲載	洞爺湖エリア行政連絡会議	平成19年度	—	洞爺湖エリア行政連絡会議構成機関に対し、シニックバイウェイ支援センターのホームページのバナー掲載を依頼。	トップページに掲載できた機関と階層の深い場所への掲載など、機関ごとの視認性の差が生じている。バナー掲載に関する統一ルール等の検討が必要。
	エリアの資源を活用した複合ツアーの企画	カーボンオフセット型ツアーでの植樹用地提供(国道よござんキャンペーン)	洞爺湖町 室蘭開発建設部	平成19年9月9日	36名	植樹用地として、洞爺湖町有地を提供。その後のメンテナンスについても町が主体となり維持管理を行う。	中長期的な維持管理計画及び、土地利用計画についての検討が必要。
		カーボンオフセット型ツアーでの植樹用地提供(洞爺エコドライブツアー)	壮瞥町	平成19年10月27日	17名	植樹用地として、壮瞥町有地を提供。その後のメンテナンスについても町が主体となり維持管理を行う。	中長期的な維持管理計画及び、土地利用計画についての検討が必要。
	★ルートを対象としたイベントの企画・実施(シニックナイト2008～灯りがつなぐ雪の道～)	室蘭開発建設部、室蘭開発建設部有珠復旧事務所	平成20年1月26日 平成20年2月9日	140名	広報PR等の支援、キャンドル点灯の参加等地域住民と協働作業を行うことでエリアとしてまた、ルートとして連携した取り組みに発展した。また、事前告知や取り組み内容は新聞や広報誌など、各種メディアに掲載された。	継続に向けた行政として協力できる支援体制についての再検討が必要。	
	★北海道洞爺湖サミットに向けた取り組み「北海道洞爺湖サミットの森づくり」ボランティア植樹祭	壮瞥町、北海道、サッポロビール株北海道本社	平成19年10月19日	160名	平成19年2月、北海道とサッポロビール株との間で、「まっかいどう企業の森林づくり連携協定」が結ばれたことを受け、10月3日、道庁にて高橋北海道知事立会の下、壮瞥町とサッポロビール株との間で森林整備に係る協定書を締結。道、サッポロビール株(協賛)、壮瞥町、久保内小学校の5・6年生、一般参加者ら160名により、壮瞥産トマツの苗木500本が町有地に植樹された。	林地残材の一部を回収し再資源化するなど、環境に配慮した作業を継続していく必要がある。	

■地域及び行政の運営に関する報告
・支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリア代表 阿野 裕紀緒	報告年月:2008/3/31
--------------------------	--------------------------------	----------------

	基本方針	具体活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営に 関わる事項	連携活動(プロジェクト)の推進	453キャンペーン		企画・検討		各種関係機関との調整	最終調整	●9月9日開催							
		景観マスター プランの作成		事前準備	企画・検討		●第1回準備会		○事前現地調査	●11月7日景観診療調査実施		●第2回準備会	→	次年度以降も継続検討	
	キャンペーンの企画・運営	シーニックナイト2008					●8月9日実行委員会開催(3エリア共同)	企画立案	●11月15日実行委員会開催(3エリア共同)	最中調整	●1月26日第1弾実施	●2月10日第2弾実施			
		外国人観光客モニターツアー			●6月14日勉強会実施(ニセコエリアと共同)			企画・立案		最終調整	※最低催行人員に達せず中止				
	洞爺湖エリアの広報活動	洞爺湖温泉街ホームページ作成		企画・調整				情報収集・情報受信体制の検討・構築(虻田高校)				●試行サイトアップ	次年度以降も継続検討		
	その他	エリア代表者会議		開催に向けた準備期間	●7月4日開催			●10月18日開催				●3月14日開催			

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者:室蘭開発建設部	報告年月:2008/3/31
--------------------------	-------------	----------------

	基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営に 関わる事項	行政連携に関するヒアリングの実施									○行政ヒアリング ↔ 地域活動団体との連携に関する施策や推進したい方策等					
		行政連絡会議の実施					●8月29日開催(よごさんキャンバーン実行委員会共同開催)		●11月7日開催(景観診療調査共同開催)						
	三開建連絡会議の実施					●7月20日第1回開催(洞爺湖)				●1月22日第2回開催(札幌)					

4. 審査委員会意見に関する報告

・支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリア代表 阿野 裕紀緒	報告年月:2008/3/31
--------------------------	--------------------------------	----------------

	支笏洞爺ニセコルート運営代表者会議の報告	支笏洞爺ニセコルート行政連絡会議の報告	備考
シーニック バイウェイ ルート全体 に対する意 見	景観への取り組み:景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出 ・今年度は、洞爺湖エリア代表者会議及び行政連絡会議が共催した形で「景観診療調査(景観づくり重点箇所の現地調査)」が実施され、地域活動団体と行政が現場で意見交換を行うことができた。 ・その結果、これまでの景観診断結果や意見交換会、各種ヒアリング結果をふまえた「洞爺湖エリア景観マスタープラン」が策定された。	過年度の検討結果をふまえ、景観重点ポイントの11箇所を地域活動団体と一緒に現地で意見交換することができ、今後の方向性やそれぞれの役割分担が共有できた。今後は、行政側の事業計画等とすり合わせを行い、「行政版景観マスター・プラン」等の検討を行い、地域と行政による美しい景観づくりの協働体制の構築を図る。	
	持続性の確保:参加する各主体(国、道、市町村、活動団体、住民)による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用 現段階では外部評価を図りうる手法が「沿道の環境を守り、活動する団体との共同研究事業(dec自主事業)」であり、ここで審査されることが一つのモチベーションになっている。今後は、エリアの取り組みに対する外部アドバイザー依頼等についての検討が必要。	昨年度に引き続き、「産業と観光」を連携させた産業観光の推進体制を確立し、胆振独自の観光ブランドの向上を図り、道内外からの誘客と滞在化を促進する。	
	地域特性の活用:北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保 行政と協働で「エコミュージアム推進構想」や「ジオパーク構想」等、地域特性を活かした様々な取り組みに関わっている。	洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会(伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町)による各種取り組みを継続することによって、有珠山・昭和新山や洞爺湖等の地域資源を活用したエリア独自の活動を展開している。	
	ホスピタリティ向上:研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成 当該エリアは、各種事業や取り組み(エコミュージアム、いぶり火山マイスター等)において地域ガイドの育成や発掘が積極的に行われており、地域ガイドとなる人材が豊富におり、ニーズに応じたツアーアテンダント等が可能である。今後はガイドの継承をいかに進めていくかが課題である。	洞爺湖や有珠火山地域の自然や特性について正確な知識を有する者に「洞爺湖有珠火山マイスター」という「地域限定の称号」を与える。次なる噴火に備えた地域防災のリーダーとして育成し、地域防災力の向上を図るとともに、平時においては貴重な地域資源である洞爺湖や有珠火山地域での質の高い火山ガイドとして、特色ある観光地づくりにも活かす。	
	全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携 北海道洞爺湖サミットの開催が決定し、洞爺湖エリアに対する国内外の注目度が高まったことで各種問い合わせが急増した。いたずらにそれらに便乗するのではなく、中長期的に持続可能な企画(カーポンオフセット型ツアー)等については、地元の受け入れも含め積極的に連携している。	管内観光の振興や観光産業と地場産業の連携推進など。海外プロモーション及び海外エージェント等の招聘事業、修学旅行誘致事業等の実施。平成19年7月9日から5泊6日でタイとシンガポールを訪問し、「北海道観光プロモーション」を実施。	
	開かれた運営体制:継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働 よごさんキャンペーンでは札幌圏から参加者を募集するなど、地域内外からのリピート率も高くなっている。また運営組織も実行委員会として独立し地元のボランティアの方々と連携・協働した取り組みへとなってきた。	北海道森林管理局後志森林管理署による「修学旅行生による洞爺湖中島の遊歩道整備」や環境省北海道地方環境事務所洞爺湖自然保護官事務所による「洞爺湖中島の特定外来種ウチダザリガニ駆除」等、道内外の参加者を募る取り組みが実施されている。	
支笏洞爺ニ セコルート	既存観光地からの脱却を目指し、歴史・文化・レクリエーションなど幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施 シーニックバイウェイ支援センター主催による「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅の現地受け入れを洞爺湖エリア代表者会議で協力した。参加者のアンケート調査結果をみると、植樹やエコドライブを経験することにより、環境を考えきつかけになり、また自ら植樹することで再来訪意向が高まることが明らかになった。	当地域では、エコミュージアム(自然博物館)構想が推進されているため、地域の方々の关心度も高い。また、新たにジオパーク(世界地質遺産)構想が地域内で機運が高まり、エコミュージアムとの連携も重要であることが認識された。	
	今後、3エリアがひとつのテーマでつながり、ブランド化されるため、一層連携した取り組みが必要であるとともに、十分な体制と支援が必要である。 地域住民、旅行客が共有できるようなテーマ、ルート名(愛称含む)等の工夫が引き続き必要	3エリアが連携したルート連携事業として「シーニックナイト2008」を実施。洞爺湖エリアが今回のシーニックナイト2008実行委員会事務局としての役割を担い、他エリアとの連携・調整を図った。実行委員会の規約も制定されるなど、徐々に事務局体制の強化を図っている。 活動団体以外へのシーニックバイウェイの周知・参加呼びかけについては、「よごさんキャンペーン」や「シーニックナイト」といった具体的な取り組みを継続していくことで少しずつではあるが、地域に対しても理解が進められている。今後はさらに共有できるテーマ等について検討していく予定。	ルート連携事業の推進にあたり、三開発建設部による連絡会議を定期的に開催し、情報提供・共有を積極的に図っている。 行政機関が持っているネットワークを活用した各種広報媒体(新聞・メディアへの情報提供)を通じて、取り組みの事前周知・事後報告(自治体広報誌、地方新聞等)を行っている。
	ウェルカム北海道エリアについて、市街地部の景観改善が本ルートの重要な役割を担うことから、景観意識の向上等に継続的に取り組んでいく必要である。	—	—
	「食」文化について一層の取り組みを期待したい。	洞爺湖エリア代表者会議が認定するシーニックカフェや活動団体が関わる飲食店等において、胆振管内で採れた食材を活用した地産地消メニューの提供が行われている。	・伊達市・壮瞥町健康保養型観光推進協議会が主体となって「健康促進型の温泉活用と食事法」に関する実験を実施。

5. 平成18年度活動報告への助言に対する状況報告

・支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)

ルート名称: 支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者: 洞爺湖エリア代表 阿野 裕紀緒	報告年月: 2008/3/31
---------------------------	----------------------	-----------------

平成18年度活動報告への助言	平成19年度 状況報告			備考
ルート代表者会議への助言	記載事項	現ルート運営計画	新規 記載事項	
○変動する社会情勢を踏まえつつ、ルート運営活動計画の更新を検討されたい。	・ルート代表者の位置づけ変更	・各エリア代表が、ルート代表を兼任	・ルート代表を1名とし、各エリアの持ち回りとする。 (平成20年度はウェルカム北海道エリア) えにわシニックプロジェクト 泉谷 清	—
ルート運営活動計画は各ルートにおける取り組みの基本となるものであることから、「急増する外国人観光の対応」や「地球環境への配慮」等の社会的要請を踏まえ、ルート運営活動計画に追加検討をする必要がある。併せて、各ルートにおいて抱える課題、目標、活動状況に応じて計画内容の更新、改訂などをを行い、ルート全体での理念・活動指針を改めて明確化する必要があることを助言とする。	◆「環境」に対する取組の推進について新規記載	—	「環境」に対する取り組みの推進～カーボンオフセットの推進～	・ルート指定後3年が経過し、「シニックナイト」等のルート連携事業が確立されたり、新たに環境に対する取り組み(カーボンオフセット型ツアーや実施等)が洞爺湖エリアで実施されるなど当初の活動方針に記載されていなかった取り組みが定着してきている。 ・また、計画策定の際には実現されていなかった取り組みが既に実施されるなど、ルート指定から5年目を目処に運営活動計画の修正について本格的に検討したい。
行政連絡会議への助言				—
○ルート運営の更なる充実に向けて、各ルートの状況に応じて、行政連絡会議における積極的な取組を期待する	・エリア代表者会議やよごさんキャンペーン等のエリア連携事業にも行政機関が参加するようになったことで窓口が明確になってきている。 ・取り組みによっては、地域活動団体と行政機関が個別に調整を図るようになるなど、以前よりも連携の垣根が低くなっていると思われる。			—

平成19年度
支笏洞爺ニセコルート活動報告
《ニセコ羊蹄エリア》

- 0. 地域活動報告の概要
- 1. ルート運営活動計画に関する地域の報告
- 2. ルート運営活動計画に関する行政の報告
- 3. 地域及び行政の運営に関する報告
- 4. 審査委員会意見に関する報告

0-地域活動報告の概要

・地域活動に関する報告(支笏洞爺ニセコルート:ニセコ羊蹄エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルートニセコ羊蹄エリア代表 古谷和之	報告年月:2008/3/31
----------------------------	-------------------------------	----------------

★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み

	基本方針	エリア計画活動内容	NO	総括
景観形成	エリアのシンボルの羊蹄山を彩り美しく見せる	眺望ポイントの調査		
		神仙沼周辺の沿道の清掃活動		
		花と緑の植栽	S N - 1	・シニックを通じて住民意識も景観に対する具体的改善・提案がされるようになってきている。
	四季折々の表情を見せる田園景観を保全する	花と緑の植栽	S N - 2	・「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」の部会である案内標識検討部会にて、シニックルートサインの必要性とあり方等について議論がされ、エリア代表者会議から平成20年度の試行設置(案)について提案があり全会一致で承認された。
		廃屋の撤去		・景観資源を観光資源へ活用する視点から、ビューポイントパーキングの利活用についても地域住民が主体となって行われている。
		フォトコンテスト		・活動の継続に向けた仕組みづくり(人・組織・資金等)についての検討が引き続き必要である。
	尻別川などの自然豊かな水辺の景観をつくる	河川周辺の清掃や管理		
		河川景観の保全と河畔林の創出	S N - 3	
		散策路・フットパスの整備	S N - 4	
	エリアの景観ルールづくり			
	看板やノボリの撤去			
地域づくり	歴史や文化資源も含めた地域資源の発掘と活用	ショートフィルム映画祭、絵画教室の開催		・活動団体以外の地域住民へのシニックの周知や活動に対する働きかけて、各種イベントや勉強会等が開催されている。
		音楽コンサートの開催		・シニックという理念を理解して頂くよりも、具体的な活動の一つ一つがシニックに繋がっているということから説明した方が地域住民にとっては理解がされやすい。
		地域資源の発掘・活用	S N - 5	・地域住民への活動参加呼びかけ等、情報提供に関する方針検討を行う必要がある。
	地域コミュニティを大切にした地域づくりの推進	地域の人々と連携した活動の推進	S N - 6	
	地域の人材の育成と活用	タウンミーティング・研修会の開催	S N - 7	
観光振興	農産物など地場産品を活用した魅力づくり	食(農産物)の活用と売り込み	S N - 8	
			S N - 9	
	エリアのきめ細かな情報の発信	ホームページで情報発信		・シニックの開始とともに始められた取り組みが多く継続展開されている他、ガイド育成認定事業等、新たな取り組みも展開され、訪れる側・迎える側それぞれの視点からの幅広い観光メニューの提案・運営が実践されている。
		ニセコをPRする冊子(英語・中国語)の作成	S N - 10	・ルート指定から3年が経過し、ルート運営計画中期計画の見直しも視野に入れる必要がある。
		エリアのホームページの作成		・これまでにはどちらかというと新しいメニューを企画・開発していくことに重きを置いていた感もあるが、今年度から全体的に既存資源やメニューの見直し・活用といったスタンスに変化しつつある。
	地域とのふれあいを大切にした観光の推進	地域の歴史などに基づいたツアーの開催	S N - 11	・対外的に認知されてくると大手企業等が共同参画してくる等のメリットとともに、やもすると大手旅行代理店等だけが利益を得るようなことにも繋がりかねないので、シニックの活動に参加している地域住民等、地域に還元できる仕組みづくりが必要。(=取り組みの継続に向けた仕組みづくりが必要。)
		地域の歴史・文化を伝える語りべの会の開催	S N - 12	
		ふれあいのある体験ツアーの企画開催	S N - 13	
		シニックバスの運行	S N - 14	
		シニックデッキ・カフェの設置	S N - 15	
			S N - 16	
			S N - 17	
		★ルートを対象としたイベントの企画・実施(シニックナイト2008~灯りがつなぐ雪のみち~)	S N - 18	・ルート連携及びエリア連携事業の代表的な取り組みとして「シニックナイト」や「エキノコックス駆除活動」等が継続して実施されることで、活動が対外的にも活動団体以外の地域住民にも周知されるようになってきた。
その他	★エリア全域を対象とした「環境」に対する取り組みの推進(エキノコックス駆除活動)		S N - 19	・今後も引き続き、ルート代表者会議やエリア代表者会議及び行政連絡会議等の場を通じ、活動の継続に向け他の活動団体や各自治体行政機関等との連携を強化する必要がある。

支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-1

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

フラワーロードユリ植え

【内 容】・道道66号沿道3kmにわたり約4万球のユリを植える村づくり研究会の継続事業。
・札幌などからの参加者も年々増加しており、村内外から100人以上の参加があった。
今年から新たに札幌からボイスカウトの方々（60名）の参加があった。
・今後の課題としては、実施＝赤字決済になる恐れがあり、平成18年度からフラワー
ロード基金やユリの花見会等、自主財源確保に繋がる取り組みを試行的に実施して
いる。

【日 時】平成19年6月3日（土）
【場 所】真狩村 道道66号沿い
【主 催】村づくり研究会
【協 力】真狩村他
【参加人数】130名（札幌市からボイスカウト60名参加）



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-2

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

国道230号沿道植栽

【内 容】・一般国道230号沿線にマリーゴールドを植栽。
・るすつWAOと留寿都村観光協会が協働で実施しており、平成19年9月6日に留寿都
村観光協会がボランティア・サポート・プログラムの協定を交わしている。
・主な活動としては、植樹帯の花植えや除草、道路沿線及び地域の環境美化に努める
こととしている。

【日 時】平成19年度
【場 所】留寿都村 国道230号沿い
【主 催】るすつWAO、留寿都村観光協会
【協 力】留寿都高等学校他
【参加人数】150名（各40名程度）



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-3

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

尻別川クリーン作戦

【内 容】・当日は、天候が悪いのにもかかわらず、町内外から300名の方々にご参加、ご協力をいただいた。

・蘭越町ランラン公園から港地区までの25km区間及び、カヌー30艇、ゴムボート2艇を使用しての清掃活動を行った。

・今年は、2トントラックで3台分のゴミが集まりました。毎年ゴミの量が減少しており、活動を継続してきた成果と考えている。

・流域町村で昨年度、統一河川条例が制定されるなど、尻別川保護への関心が高まっている。また、本取り組みが北海道から表彰を受けた。

【日 時】平成19年6月30日（土）

【場 所】尻別川流域（集合場所 蘭越町ランラン公園）

【主 催】NPO法人しりべつリバーネット

【参加人数】300名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-4

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

「第7回 全道フットパスの集い in ニセコ・ようてい」の開催

【内 容】・遠くは大分県をはじめ道内外から120名を越える皆さんにご参加をいただき、宮田太郎氏の基調講演、事例発表、交流会を実施。

・翌日には3コースに分かれてのフットパスと大変盛況のうちに無事終了する事ができた。

・しりべつリバーネットは、全道各地域、団体との連携を深め、全道各地にフットパスの動きを広げていく予定。

【日 時】平成19年10月13日（土）、14日（日）

【場 所】ニセコ町

【主 催】全道フットパス・ネットワーク準備会

【共 催】NPO法人しりべつリバーネット、エコネットワーク

【協 力】ニセコ町

【参加人数】120名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-5

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

マレーシアトドライブ観光ツアー
「トレジャーハント北海道」のサポート

【内 容】・国内初の取り組みとして、プライムトラベルとシニックバイウェイ支援センターが企画するマレーシア人70名によるレンタカードアイプツアー（宝探しの旅）をニセコ観光国際の会がサポート。

・今回のツアーは、「HUNT HOKKAIDO」といった名の通り、与えられたヒント付地図とカーナビ、QRコードを頼りに、ルスツ～ニセコ～積丹～小樽間をレンタカーで宝探し。ニセコ観光国際の会は、事前調査及び当日のメニューとして剣道体験やわさびサンドイッチ等の準備対応を行った。

【日 時】平成19年10月11日(木)

【場 所】支笏洞爺ニセコルート ニセコ羊蹄エリア

【主 催】プライムトラベル、シニックバイウェイ支援センター

【共 催】ニセコ観光国際の会

【参加人数】70名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-6

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

新潟県中越沖地震災害復興支援ボランティア活動の実施

【内 容】・平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震の復興を支援するため、NPO法人きもべつWAOは趣旨にご賛同頂いた方々のご協力・ご支援のもと、震災地である新潟県柏崎市でボランティア（炊き出し）活動を実施。

・ボランティア当日は、喜茂別町産の食材を詰め込んだ「いなかのおもいやり」を活用し、2日間で約1,500人分のカレーライスと豚汁を提供し、わずかではありますかが被災者の方を応援することができた。

【日 時】平成19年7月25日～7月28日

【場 所】新潟県柏崎市

【主 催】NPO法人きもべつWAO

【協 力】喜茂別町、喜茂別町議会、喜茂別町商工会、喜茂別町商工会青年部、後志建設工業㈱

シニックバイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルート ニセコ羊蹄エリア代表者会議

シニックナイト2008実行委員会

【参加人数】10名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-7

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

国道393号地域懇談会

【内 容】・俱知安町北四線地区の地域住民を対象として、国道393号線工事について、工事進捗状況や今後の竣工までの予定について行政と意見交換を行った。

・また、シーニックバイウェイ北海道について広く普及するため、これまでの取り組み（シーニックテッキ、シーニックナイト、エキノコックス駆除活動等）や今後の予定などについて事例紹介を行った。

・参加者からは、プロセスを共有できることや行政と意見交換を出来る貴重な場として大変有り難いとの声が多かった。

【日 時】平成19年9月5日（水）

【場 所】俱知安町

【主 催】NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会

【協 力】小樽開発建設部

【参加人数】60名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-8

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

「じゅうごばあ」によるご当地グルメの提供

【内 容】・ニセコ町食品加工サークルが母体となり、ニセコ在住の15人のおばあちゃん達による組織。

・そのおばあちゃん達が作る郷土の「おふくろの料理」。どこか懐かしい、温かな故郷の味を提供している。

・ニセコ羊蹄エリアの各種イベントやフォーラム懇親会等で地場産品を活用した料理を提供して好評を博している。

【場 所】ニセコ羊蹄エリア

【協 力】NPO法人しりべつリバーネット他



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-9

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

きもべつアスパラ祭り

- 【内 容】
・今年は恒例イベントであった「花の市」と同じ会場で同時開催とした。
・昨年は開場後30分程度で完売してしまったので、今年は日程を少し繰り上げ、あえて宣伝はあまり行わなかった。
・喜茂別産のアスパラを提供するお店を紹介するマップを作ってイベントで配ったり、町内のアスパラ畑で収穫体験ツアーを組んだり、いろんな試みを実施。
・今後は、クレードル興農や生産農家などさまざまな関係者と協力して、イベントをさらに定着させたい。
- 【日 時】平成19年5月27日（土）
【場 所】喜茂別町民公園駐車場
【主 催】NPO法人きもべつWAO
【参加人数】300名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-10

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

ニセコ ガイドブック「3W NISEKO」発行

- 【内 容】
・海外から訪れる観光客の皆様に、スキー＆スノーボード、温泉、宿情報やエッセイなどのローカルな情報を提供。
・エリア内の各観光案内所、JR駅、道の駅等にて無料配布。
・ニセコ観光国際の会のホームページ上でもウェブブックとして公開中。
- 【日 時】平成19年
【場 所】道の駅、ニセコ羊蹄エリアの観光・宿泊施設等で無料配布
【主 催】ニセコ観光国際の会
【発行部数】1万部



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-11

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

観光ガイド育成ガイドブック「ぐるっと羊蹄まちしるべ」の発行と
「研修講座」及び「検定試験」の実施

【内 容】・ニセコ羊蹄山麓地域を訪れる観光客への「おもてなし」ホスピタリティの向上、地域のイメージアップと関連経済の活性化に貢献するために、羊蹄山麓の観光資源をはじめ歴史、文化、産業などの情報を集約し、ガイド育成のためのテキストブックを作成。「ぐるっと羊蹄山まちしるべ」を活用して、観光ガイド育成事業を推進。

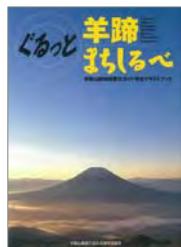
・事業1年目の平成19年度は「初級」、2年目以降は「中級」「上級」と事業を展開。今後は、観光ガイドとして起業することで、観光による地域振興に役立てていけるよう進めていく予定。

・平成19年12月1日に実施された検定試験には、東京・札幌・小樽・苫小牧・山麓町村から387の受験があり、301名が合格した。

【日 時】平成19年

【主 催】羊蹄山麓商工会広域連携協議会（NPO法人しりべつリバーネット）

【参加人数】387名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-12

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

自然学教室の開催

【内 容】・「地域の自然について」の正しい理解と啓発とその波及効果の検証を目的としてウェルカム北海道エリア、洞爺湖エリア、ニセコ羊蹄エリア巡回でフィールドワーク（勉強会）を開催。

・自然学の専門家による専門講座を開催、ニセコ、洞爺、支笏の3エリアで各5回実施。午前的基本を、午後から野外で専門を実施。

・3エリアが共通のプログラムを行うことで広域での情報ネットワークを構築することができた。

・ガイド講座、資源活用の有効性の検証を行い、資源としての活用可能性について提案した。

・これからの課題としては、「地域の自然情報の集約」、「情報の共有化（地域内＆広域）」、「情報の発信（パンフ、ガイドブック、案内所、ガイド）」、「ガイドのスキルアップ」、「底辺の拡大（地域の人）」、「身近な自然への関心を高める」等が挙げられた。

【日 時】平成19年

【主 催】NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会

【参加人数】100名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-13

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

ニセコ羊蹄エリア「秋のふれあいマーケット」

【内 容】・地域の方々とふれあい、美しい景観づくりの活動「シニックバイウェイ北海道」を理解していただくこと、小川原脩記念美術館や俱知安町風土館と連携することで、地域固有の文化や歴史、生活を発掘・創出するような活動を広げる第1歩とする
・主な内容としては、「ニセコ羊蹄エリア農産物の販売」、「美術館、風土館の企画展」、「シニックバイウェイ北海道の紹介（パネル展）」等を行った。
【日 時】平成19年11月3日(土・祝) 10:00～15:00 (売り切れ次第終了)
【場 所】小川原脩記念美術館駐車場
【主 催】NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会
【共 催】支笏洞爺ニセコルートニセコ羊蹄エリア代表者会議 シニックバイウェイ支援センター
【協 力】小川原脩記念美術館、俱知安風土館、北部地区有志、六郷地区有志、俱知安農業高校、らんこしWAO
さもべつWAO、るすつWAO、その他ニセコ羊蹄エリア活動団体、俱知安町、俱知安町教育委員会、
俱知安商工会議所、俱知安観光協会、後志支庁、小樽開発建設部
【参加人数】300名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-14

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

シニックカフェ「曾我の散歩道」 (「空の散歩道」でのグッズ販売)

【内 容】・これまでに継続展開してきたシニックカフェに加え、お茶と雑貨のお店「空のさんぽみち」を新規展開。
・ニセコならではの自然のストリーを盛り込んだ雑貨等を販売。
・来訪者は手作りならではの雑貨に喜んでいた。
・冬期間は、グラン・ヒラフ前ニセコ高原ホテルのラウンジに移転・展開。

【日 時】平成19年
【場 所】曾我の散歩道（ニセコ町曾我）、ニセコ高原ホテル（俱知安町比羅夫）
【主 催】ニセコ羊蹄エリア代表者会議認定（ニセコ観光国際の会）
【参加人数】200名（延べ人数）



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-15

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

シーニックカフェ「しろくまカフェ」

【内 容】・平成開拓団・俱楽部「森の回廊」でしろくま園長が開いているお食事と喫茶のお店。
・大きな窓からは晴れた日には羊蹄山が圧倒的な存在感で迫ってくる絶景を眺めながら、ニセコの食材を中心としたメニューを楽しむことができる。

【日 時】平成19年

【場 所】曾我の散歩道（ニセコ町曾我）、ニセコ高原ホテル（俱知安町比羅夫）

【主 催】ニセコ羊蹄エリア代表者会議認定

【参加人数】200名（延べ人数）



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-16

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

シーニックデッキin八幡&シーニックデッキin半月湖

【内 容】[シーニックデッキin八幡]

・一般国道276号線を俱知安町へ向かって左側の駐車帯に設置されたデッキからは羊蹄山が望める。

[シーニックデッキin半月湖]

・羊蹄山の懐にひっそりと抱かれた半月湖の入口（駐車場）に新設。

【日 時】平成19年5月～11月

【場 所】俱知安町

【主 催】NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会



シーニックデッキin八幡



シーニックデッキin半月湖

支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-17

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

シーニックデッキin小川原脩記念美術館

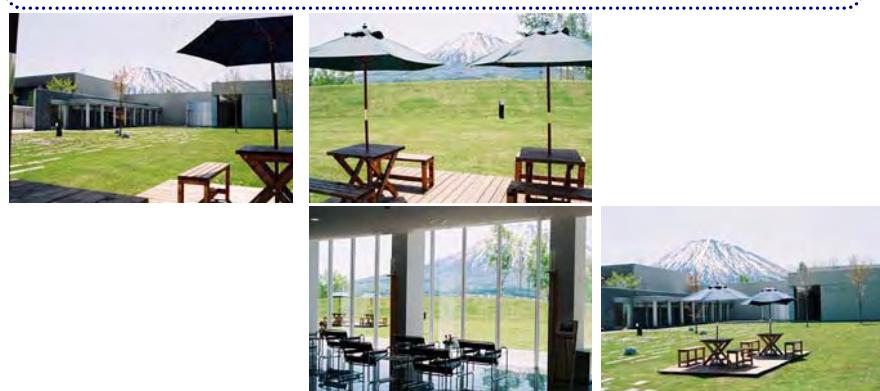
【内 容】・俱知安町の東側、羊蹄山を正面に望む小高い丘の上に位置し、風景にとけこむように配された美術館を挟む形で設置されたデッキ。

・美術館の南庭、北庭からは羊蹄山が、また西側にはニセコアンヌプリが望める。

【日 時】平成19年5月～11月

【場 所】俱知安町

【主 催】NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-18

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

支笏洞爺ニセコルートをつなぐ「シーニックナイト2008」

【内 容】・ルートの連携事業として展開してから今回で3回目となり、各エリアでも地域のイベントとして定着しつつある。

・ニセコエリアを訪れる観光客へ呼びかけ、取り組みの周知を図ることが出来た。

・また、関連グッズとして、ポストカードやエコバッグ等、新たな商品も試行的に販売された。

・次年度以降の取り組みのあり方について検討する必要がある。

【日 時】平成20年1月26日（土）、2月9日（土）

【場 所】ニセコ羊蹄エリア 各地

【主 催】シーニックナイト2008実行委員会

【参加人数】約400名



支笏洞爺ニセコルート《ニセコ羊蹄エリア》

SN-19

SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

エキノコックス駆除活動

【内 容】・ニセコ羊蹄地域が国際的な観光地へ発展するための環境整備のひとつとして、人間と野生動物が安全に共存できる状況をつくるための生態系修復の試み。
・今年度は新たに京極町及び蘭越町へエリアを拡大展開し、寄生されたキツネの糞に含まれるエキノコックスの抗原（排泄物）の有無に基づいて寄生率を求めた。
・その結果、京極町では、45.9%（3回の平均値）、蘭越町では17.3%の結果が出た。この結果は、京極町では現実にエキノコックスが非常に身近に、それもごく普通に存在していることを示している。
・エリア代表者会議、及び行政連絡会議においても周知・協力体制の構築を図っており、エリア全体の取り組みとしての展開につながることを期待する。 。
【日 時】平成19年度
【場 所】俱知安町、京極町、蘭越町
【主 催】NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会、京極町景観を考える会、らんこしWAO 他
【参加人数】約40名



エキノコックス駆除報告会の様子



キャンペーンステッカー(500円)

1. ルート運営活動計画に関する地域の報告

・地域活動に関する報告(支笏洞爺ニセコルート:ニセコ羊蹄エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)			報告者:支笏洞爺ニセコルート ニセコ羊蹄エリア代表 古谷和之				報告年月:2008/3/31	
★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み								
基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
エリアのシンボルの羊蹄山を彩り美しく見せる	眺望ポイントの調査		実施せず	—	—	—	—	シニックを通じて住民意識も景観に対する具体的改善・提案がされるようになってきている。 ・羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会の部会である案内標識検討部会にて、シニックルートサインの必要性とあり方等について議論がされ、エリア代表者会議から平成20年度の試行設置(案)について提案があり全会一致で承認された。 ・景観資源を観光資源へ活用する視点から、ビューポイントパーキングの利活用についても地域住民が主体となって行われている。 ・活動の継続に向けた仕組みづくり(人・組織・資金等)についての検討が引き続き必要である。
	神仙沼周辺の沿道の清掃活動		共和町神仙沼周辺 パノラマラインの清掃活動	共和町商工会青年部	平成19年6月、 平成19年10月	20名 (各10名程度)	・毎年商工会青年部の日である6月、10月(道路閉鎖前)に2回実施している。 ・平日の夕方に実施しているので、参加者は10名位。 ・参加者は年々減少傾向にあるが、無理のないように継続してやって行きたい。 ・活動が大規模になると、さらに地域住民の協力が必要となる。	
	花と緑の植栽		綺羅街道沿道植栽	NPO法人ニセコまちづくりフォーラム	平成19年6月3日、 平成19年6月10日	200名 (各100名程度)	・ニセコ花フェスタ綺羅街道事業の一環として、毎年6月から9月にかけて、NOP法人ニセコまちづくりフォーラムが中心となり、植栽活動を行なっている。 ・広く市民に参加を呼びかけて実施。ニセコ町商工会などとも連携し、多くの市民が参加した。 ・次年度以降は、来訪者も参加して頂けるような仕組み作りを考えていこうと考えている。	
	S N - 1 フラワーロードユリ植え			村づくり研究会	平成19年6月3日	130名	・道道6号沿道3kmにわたり約4万球のユリを植える村づくり研究会の継続事業。 ・また札幌などからの参加者も年々増加しており、村内外から100人以上の参加があった。今年から新たに札幌からボースカウトの方々(60名)の参加があった。 ・今後の課題としては、実施=赤字決済になる懼れがあり、平成18年度からフラワーロード基金やユリの花見会等、自主財源確保に繋がる取り組みを試行的に実施している。	
	S N - 2 国道230号沿道植栽		るすつWAO (留寿都村観光協会)	るすつWAO (留寿都村観光協会)	平成19年度	150名 (各40名程度)	・一般国道230号沿線にマリーゴールドを植栽。 ・るすつWAOと留寿都村観光協会が協働して実施しており、平成19年9月6日に留寿都村観光協会がボランティア・サポート・プログラムの協定を交わしている。 ・主な活動としては、植樹帯の花植えや除草、道路沿線及び地域の環境美化に努めることしている。	
四季折々の表情を見せる田園景観を保全する	廃屋の撤去		羊蹄山麓広域景観づくりと協働で検討	エリア全体	継続検討中	—	・後志支庁で推進する「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」に活動団体メンバーが多数参加しており、シニックハイウェイとして取り組むべく内容について継続検討中。 ・サミットの国際メディアセンター付近である留寿都村の廃ペンションのあり方にについて、後志支庁、留寿都村役場、るすつWAO、留寿都村建設業協会他が景観上や警備上の問題から撤去に向けた検討を行っている。	シニックを通じて住民意識も景観に対する具体的改善・提案がされるようになってきている。 ・羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会の部会である案内標識検討部会にて、シニックルートサインの必要性とあり方等について議論がされ、エリア代表者会議から平成20年度の試行設置(案)について提案があり全会一致で承認された。 ・景観資源を観光資源へ活用する視点から、ビューポイントパーキングの利活用についても地域住民が主体となって行われている。 ・活動の継続に向けた仕組みづくり(人・組織・資金等)についての検討が引き続き必要である。
	フォトコンテスト		実施せず	村づくり研究会	平成19年度	—	・平成18年度まで真狩村づくり研究会が主催で「フラワーロードフォトコンテスト」を開催してきたが、活動資金の縮小に伴いフォトコンテストは取りやめとなつた。	
尻別川などの自然豊かな水辺の景観をつくる	河川周辺の清掃や管理		尻別川周辺清掃(草刈等)	京極町景観を考える会	毎月1~2回程度	20名 (各60名程度)	・ビューポイントパーキング周辺の草刈及び清掃活動を月に1~2回の頻度で実施。 ・毎回10名程度のボランティア参加があり、高齢者事業団の人的協力も頂いている。 ・京極町景観を考える会及び協力関係にある高齢者事業団の活動を、町長は非常に高く評価してくれている。 ・参加主体は高齢者ではあるが、皆とても元気であり地域に対する思いを形として表現できるので、とてもやりがいのある活動である。	シニックを通じて住民意識も景観に対する具体的改善・提案がされるようになってきている。 ・活動の継続に向けた仕組みづくり(人・組織・資金等)についての検討が引き続き必要である。
	S N - 3 尻別川クリーン作戦			NPO法人しりべつリバーネット、蘭越町	平成19年6月30日	300名	・当日は、天候が悪いにもかかわらず、町内外から300名の方々にご参加、ご協力をいただいた。 ・蘭越町ランラン公園から港地区までの25km区間及び、カヌー30艇、ゴムボート2艇を使用しての清掃活動を行なった。 ・今年は、2トントラックで3台分のゴミが集まりました。毎年ゴミの量が減少しており、活動を継続してきた成果と考えている。 ・流域町村で昨年度、統一河川条例が制定されるなど、尻別川保護への関心が高まっている。 ・また、本取り組みが北海道から表彰を受けた。	
			水辺のシンポジウムinニセコ	NPO法人しりべつリバーネット	平成19年10月27日	100名	・安全で楽しい川遊びの知識を通して、子ども達に川の魅力を伝えたいという想いや、人々の歴史や暮らしと深く関わる川の魅力と課題を語るシンポジウムを開催。	
	散策路・フットバスの整備	S N - 4	「第7回 全道フットパスの集いinニセコ・ようつい」の開催	主催:全道フットパス・ネットワーク準備会 共催:NPO法人しりべつリバーネット、エコネットワーク 協力:ニセコ町	平成19年10月13日、14日	120名	・遠くは大分県をはじめ道内外から120名を越える皆さんにご参加をいただき、宮田太郎氏の基調講演、事例発表、交流会を実施。 ・翌日には3コースに分かれてのフットバスと大変盛況のうちに無事終了する事ができた。 ・しりべつリバーネットは、全道各地域、団体との連携を深め、全道各地にフットバスの動きを広げていく予定。	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)			報告者:支笏洞爺ニセコルート ニセコ羊蹄エリア代表 古谷和之			報告年月:2008/3/31		
★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み								
基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
エリアの景観ルールづくり 看板やノボリの撤去	羊蹄山麓広域景観づくりにて検討		ニセコ羊蹄エリア代表者会議	継続検討中	—	—	・後志支庁で推進する「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」に活動団体メンバーが多数参加している。 ・平成19年度の主要な活動としては、案内標識検討部会にてシニックバイウェイルーサインの試行設置に関する案件が全会一致で承認され、平成20年5月以降の試行設置へと展開した。	
歴史や文化資源も含めた地域資源の発掘と活用	ショートフィルム映画祭、絵画教室の開催		実施せず	—	—	—	—	
	音楽コンサートの開催		シニックナイト2008コンサートinニセコ	シニックナイト2008実行委員会ニセコ羊蹄エリア	平成20年2月9日	30名	・昨年に引き続き、シニックナイトを肌で感じてもらい、生の音楽に接してもらうことで、楽し・文化的な時間を過ごしてもらうことを目的にシニックナイト2008コンサートを開演。 ・事前周知、集客方法、会場の選定等の課題は残ったが、FM小樽との連携により新たな展開を見せた。	・活動団体以外の地域住民へのシニックの周知や活動に対する働きかけとして、各種イベントや勉強会等が開催されている。 ・シニックという理念を理解して頂くよりも、具体的な活動の一つかがシニックに繋がっているということから説明した方が地域住民にとっては理解がされやすい。 ・地域住民への活動参加呼びかけ等、情報提供に関する方針検討を行っている。
	地域資源の発掘・活用	S N - 5	マレーシアドライブ観光ツアー「トレジャーハント北海道」のサポート	ニセコ観光国際の会他	平成19年10月11日	70名	・国内初の取り組みとして、フライムドラベルビンシニックハイウェイ支援センターが企画するマレーシア人70名によるレンタカードアイツア(宝探しの旅)をサポート。 ・今回のツアーは、「HUNT HOKKAIDO」といった名の通り、与えられたヒント付地図とカーナビ、QRコードを頼りに、ルスツ～ニセコ～積丹～小樽間をレンタカーで宝探し。 ・ニセコ観光国際の会は、事前調査及び当日のメニューとして剣道体験やわざびサンバーバチ等の準備対応を行った。	
地域コミュニティを大切にした地域づくりの推進	地域の人々と連携した活動の推進	S N - 6	新潟県中越沖地震災害復興支援ボランティア活動の実施	NPO法人きもべつWAO他	平成19年7月25日～7月28日	10名	・平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震の復興を支援するため、NPO法人きもべつWAOは趣旨に賛同頂いた方々のご協力ご支援のもと、震災地である新潟県柏崎市でボランティア(焼き出し)活動を実施。 ・ボランティア当日は、喜茂別町産の食材を詰め込んだ「いかのかのものやり」を活用し、2日間で約1,500人分のカレーライスと豚汁を提供し、わずかではありませんが被災者の方を応援することができた。	
地域の人材の育成と活用	タウンミーティング・研修会の開催	S N - 7	国道393号地域懇談会	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会	平成19年9月5日	60名	・県知安町北四線地区的地域住民を対象として、国道393号線工事について、工事進捗状況や今後の竣工までの予定について行政と意見交換を行った。 ・また、シニックハイウェイ北海道について広く普及するため、これまでの取り組み(シニックデッキ、シニックナイト、エキノコックス駆除活動等)や今後の予定などについても事例紹介を行った。 ・参加者からは、プロセスを共有できることや行政と意見交換を出来る貴重な場として大変有り難いとの声が多かった。	
農産物など地場産品を活用した魅力づくり	食(農産物)の活用と売り込み	S N - 8	「じゅうごばあ」によるご当地グルメの提供	NPO法人しりべつりバネット他	平成19年度	—	・ニセコ町食品加工サークルが母体となり、ニセコ在住の15人のおばあちゃん達による組織。 ・そのおばあちゃん達が作る郷土の「おふくろの料理」。どこか懐かしい、温かな故郷の味を提供している。 ・ニセコ羊蹄エリアの各種イベントやフォーラム懇親会等で地場産品を活用した料理を提供して好評を博している。	
		S N - 9	きもべつアスパラ祭り	NPO法人きもべつWAO	平成19年5月27日	300名	・今年は恒例イベントであった「花の市」と同じ会場で同時開催とした。 ・昨年は開場後30分程度で完売してしまったので、今年は日程を少し繰り上げ、あえて富宣はあまり行われなかった。 ・喜茂別産のアスパラを提供するお店を紹介するマップを作ってイベントで配つたり、町内のアスパラ畑で収穫体験ツアーを組んだり、いろんな試みを実施。 ・今後は、クレードル興農や生産農家などさまざまな関係者と協力して、イベントをさらに定着させたい。	
エリアのきめ細かな情報の発信	ホームページで情報発信		FMラジオを活用した情報発信(しりべつマン)	エリア全体	平成19年度	—	・今年度は各活動団体のホームページ等による情報発信を重視し、エリア全体で整合を図ったホームページや情報誌等は作成しなかった。 ・その代用として、FM小樽と連携してニセコ羊蹄エリアの活動を紹介する「しりべつマン」のコーナーに活動団体の方々が出演し、シニックに対する思いを語った。 ・次年度以降、エリア及びルート間の連携を図った情報媒体について検討する必要がある。	
	ニセコをPRする冊子(英語・中国語)の作成	S N - 10	ニセコ ガイドブック「3W NISEKO」発行	ニセコ観光国際の会	平成19年度	—	・海外から訪れる観光客の皆様に、スキー＆スノーボード、温泉、宿情報やエッセイなどのローカルな情報を提供。 ・エリア内の各観光案内所、JR駅、道の駅等にて無料配布。 ・ニセコ観光国際の会のホームページ上でもウェブックとして公開中。	
	エリアのホームページの作成		ニセコ羊蹄エリアポータルサイトリニューアル	エリア全体	平成19年度	—	・既存のニセコ羊蹄エリアホームページ(運営・管理:きもべつWAO)を大幅にリニューアルし、情報分科会が主体となった形で内外への情報周知及び情報を提供する。 ・基本的な考え方としては、以下の通り。 →HPのデザインやデータの投稿・更新は誰でも使える簡単なものとする。 →取材情報や地域情報投稿等は「ログ形式」を当面想定し、設計を行う。 →ターゲットは、地域活動団体(内部情報共有)と一般観光客(外向け情報提供)	・シニックの開始とともに始められた取り組みが多く継続展開されている他、ガイド育成認定事業等 新たな取り

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)			報告者:支笏洞爺ニセコルート ニセコ羊蹄エリア代表 古谷和之			報告年月:2008/3/31		
★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み								
基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
観光振興 地域とのふれあいを大切にした観光の推進	地域の歴史など基づいたツアーオの開催		広域活性化セミナーの開催	羊蹄山麓商工会広域連携協議会(NPO法人しりべつリバーネット)	平成20年3月22日	50名	・かつてニセコで行われた『日本上流文化園会議』や、視察研修でお世話になった角田周さんを講師としてフォーラムを開催。 ・講師からは、地吹雪を都会人むけの観光に生かす「地吹雪体験ツアー」や、3つの原則守り民間ボランティアによる地域活性化について。また、過疎化が進行した町に観光客を倍増させる秘訣や津軽半島の各地に広がる連携の輪等について事例を交えながらお話し頂いた。	まとめ、取り組みも展開され、訪れる側・迎える側そぞれの視点からの幅広い観光メニューの提案・運営が実践されている。 ・ルート指定から3年が経過し、ルート運営計画中期計画の見直しも視野に入れる必要がある。 ・これまでほどどちらかといふと新しいメニューを企画・開発していくことに重きを置いていた感もあるが、今年度から全体的に既存資源やメニューの見直し・活用といったスタンスに変化しつつある。 ・対外的に認知されると大手企業等が共同参画てくる等のメリットとともに、ややもすると大手旅行代理店等だけが利益を得るようなことにも繋がりかねないので、シニックの活動に参画している地域住民等、地域に還元できる仕組みづくりが必要。(=取り組みの継続に向けた仕組みづくりが必要。)
	観光ガイド育成ガイドブック「ぐるっと羊蹄まちしんべ」の発行と「研修講座」及び「検定試験」の実施	S N - 11	観光ガイド育成ガイドブック「ぐるっと羊蹄まちしんべ」の発行と「研修講座」及び「検定試験」の実施	羊蹄山麓商工会広域連携協議会(NPO法人しりべつリバーネット)	平成19年度	387名	・ニセコ羊蹄山麓地域を訪れる観光客への「おもてなし」ホスピタリティの向上、地域のイメージアップと関連経済の活性化に貢献するために、羊蹄山麓の観光資源をはじめ歴史、文化、産業などの情報を集約し、ガイド育成のためのテキストブックを作成。 ・「ぐるっと羊蹄山まちしんべ」を活用して、観光ガイド育成事業を推進。 ・事業1年目の平成19年度は「初級」、2年目以降は「中級」「上級」と事業を展開。今後は、観光ガイドとして起業することで、観光による地域振興に役立てていけるよう進めていく予定。 ・平成19年12月1日に実施された検定試験には、東京・札幌・小樽・苫小牧・山麓町村から387人の受験があり、301名が合格した。	
		S N - 12	自然学教室の開催	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会	平成19年度	100名	・「地域の自然について」の正しい理解と啓発とその波及効果の検証を目的としてツールカム北海道エリア、洞爺湖エリア、ニセコ羊蹄エリア巡回でフィールドワーク(勉強会)を開催。 ・自然学の専門家による専門講座を開催、ニセコ、洞爺、支笏の3エリアで各5回実施。午前的基本を、午後から野外で専門を実施。 ・3エリアが共通のプログラムを行うことで広域での情報ネットワークを構築することができた。 ・ガイド講座、資源活用の有効性の検証を行い、資源としての活用可能性について提案した。 ・これかららの課題としては、「地域の自然情報の集約」、「情報の共有化(地域内&広域)」、「情報の発信(パンフ、ガイドブック、案内所、ガイド)」、「ガイドのスキルアップ」、底辺の拡大(地域の人)、「身近な自然への関心を高める」等が挙げられた。	
	ふれあいのある体験ツアーの企画開催	S N - 13	ニセコ羊蹄エリア「秋のふれあいマーケット」	[主催] NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会 [共催] シニックバイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルートニセコ羊蹄エリア代表者会議他	平成19年11月3日	300名	・地域の方々とふれあい、美しい景観づくりの活動「シニックバイウェイ北海道」を理解していただくこと、小川原脩記念美術館や俱知安町風土館と連携することで、地域固有の文化や歴史、生活を発掘・創出するような活動を広げる第1歩とする。 ・主な内容としては、「ニセコ羊蹄アリア農産物の販売」、「美術館、風土館の企画展」、「シニックバイウェイ北海道の紹介(パネル展)」等を行った。	
	シニックバスの運行		ニセコ循環ふれあいシャトルバス	株式会社ニセコリゾート観光協会	平成19年度	—	・過去3年間、ポンネットバスの代燃車「まさ太郎」で景観に優れている羊蹄山の周り5か町村の国道・道道・町村道などを通って、のんびりと1周して楽しんでもらう企画を実施していたが、費用面等の課題から今年度は実施せず、「ニセコ循環ふれあいシャトルバス(町内一律100円)」に集約する形とした。	
	シニックデッキ・カフェの設置	S N - 14	シニックカフェ「昔我の散歩道」(「空の散歩道」でのグッズ販売)	ニセコ羊蹄エリア代表者会議認定	平成19年度	200名 (延べ人数)	・これまでに継続展開してきたシニックカフェに加え、お茶と雜貨のお店「空のさんぽみち」を新規展開。 ・ニセコならではの自然のストリーを盛り込んだ雑貨等を販売。 ・来訪者は手作りなどではの雑貨に喜んでいた。 ・冬期間は、グラン・ヒラ前ニセコ高原ホテルのラウンジに移転・展開。	
		S N - 15	シニックカフェ「しろくまカフェ」	ニセコ羊蹄エリア代表者会議認定	平成19年度	200名 (延べ人数)	・平成開拓団・俱楽部「森の回廊」でしろくま团长が開いているお食事と喫茶の店。 ・大きな窓からは晴れた日には羊蹄山が圧倒的な存在感で迫ってくる絶景を眺めながら、ニセコの食材を中心としたかメニューを楽しむことができる。	
			シニックデッキin北四線	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会	平成19年9月～10月	—	・昨年、一昨年に引き続き、俱知安町北四線地区にシニックデッキを設置し、羊蹄山の優れた眺望景観を訪れた方々に提供。	
		SN-16	シニックデッキin八幡	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会	平成19年5月～11月	—	・一般国道276号線を俱知安町へ向かって左側の駐車帯に設置されたデッキからは羊蹄山が望める。	
			シニックデッキin半月湖	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会	平成19年5月～11月	—	・羊蹄山の懐にひっそりと抱かれた半月湖の入口(駐車場)に新設。	
	S N - 17	シニックデッキin小川原脩記念美術館	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会	ニセコ羊蹄再発見の会	平成19年5月～11月	—	・俱知安町の東側、羊蹄山を正面に望む小高い丘の上に位置し、風景にとけこむように配された美術館を挟む形で設置されたデッキ。 ・美術館の南庭、北庭からは羊蹄山が、また西側にはニセコアンヌプリが望める。	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルート ニセコ羊蹄エリア代表 古谷和之	報告年月:2008/3/31
----------------------------	--------------------------------	----------------

★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
ルート及びエリア全域を対象とした取り組み	★ルートを対象としたイベントの企画・実施 (シニックナイト2008～灯りでつなぐ雪のみち～)	S N - 18	支笏洞爺ニセコルートをつなぐ「シニックナイト2008」	シニックナイト2008実行委員会	平成20年1月26日 平成20年2月9日	約400名	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートの連携事業として展開してから今回で3回目となり、各エリアでも地域のイベントとして定着しつつある。 ・年々、回を重ねる毎にシニックナイトで参加地域の拡大と地域ごとの個性的な取り組みが実施されるなど連携活動が活発化。 ・ニセコエリアを訪れる観光客へ呼びかけ、取り組みの周知を図ることが出来た。 ・また、関連グッズとして、ポストカードやエコバッグ等、新たな商品も試行的に販売された。 ・喜茂別町では、国道沿道の空き地を活用し喜茂別高校の生徒がボランティアで会場設営に関わるなど、地域住民が参加できる仕組みが出来てきている。 ・ニセコ町では、ニセコ駅前「錦羅乃湯」で商工会青年部が協力のもと盛大に開催され、関連イベントとして「シニックナイト酒風呂」等も行われた。 ・また、俱知安町でも商店街や地元企業の方々がそれぞれの仕掛けを施し冬の沿道を彩っていました。 ・次年度以降の取り組みのあり方について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート連携及びエリア連携事業の代表的な取り組みとして「シニックナイト」や「エキノコックス駆除活動」等が継続して実施されることで、活動が対外的にも活動団体以外の地域住民にも周知されるようになってきた。 ・今後も引き続き、ルート代表者会議やエリア代表者会議及び行政連絡会議等の場を通じ、活動の継続に向け他の活動団体や各自治体行政機関等との連携を強化する必要がある。
	★エリア全域を対象とした「環境」に対する取り組みの推進	S N - 19	エキノコックス駆除活動	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会、京極町景観を考える会、らんこじWAO 他	平成19年度	約40名	<ul style="list-style-type: none"> ・ニセコ羊蹄地域が国際的な観光地へ発展するための環境整備のひとつとして、人間と野生動物が安全に共存できる状況をつくるための生態系修復の試み。 ・今年度は新たに京極町及び蘭越町へエリアを拡大展開し、寄生されたキツネの蔓に含まれるエキノコックスの抗原(排泄物)の有無に基づいて寄生率を求めた。 ・その結果、京極町では、45.9%(3回の平均値)、蘭越町では17.3%の結果が出た。この結果は、京極町では現実にエキノコックスが非常に身近に、それもごく普通に存在していることを示している。 ・エリア代表者会議、及び行政連絡会議においても周知・協力体制の構築を図っており、エリア全体の取り組みとしての展開につながることを期待する。 	

2. ルート運営活動計画に関する行政の報告

・行政の事業に関する報告(支笏洞爺ニセコルート:ニセコ羊蹄エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア) 報告者:小樽開発建設部						報告年月:2008/3/31	
	基本方針	平成19年度の活動内容	関係機関	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	総括
景観形成	エリアのシンボルの羊蹄山を彩り美しく見る	羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会	羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会(会長:蘭越町長、副会長:俱知安町長) 後志支庁	平成19年度	—	羊蹄山麓7町村(蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、俱知安町)では、「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」を設立し、地域の誇りである羊蹄山を中心に行政界にとどまることなく、地域が一体となった景観づくりの取り組みを通して、地域の魅力をもつてアピールしようという取り組みを行っている。	協議会設立以降、地域住民、シニック活動団体、行政機関の協力を得ながら、「広域景観づくり指針」(地元案)を作成し、知事(後志支庁長)に提出するとともに、「羊蹄山麓7町村への景観法適用の検討」について要望を行った。
	四季折々の表情を見せる田園景観を保全する	町民ボランティアの集い「まちをきれいにしよう」	京極町	平成19年5月	500名	ゴミや空き缶を拾い集め、きれいなまちづくりを行うことを目的として、毎年5月に市街地の清掃活動を実施。	平成18年は町民約200名が参加し、町内一円のごみ拾いを実施。また、シニックハイウェイ活動団体である「京極町景観を考える会」からは15名が参加し、雑木の除去作業を実施した。
		フラワーロード事業の実施	真狩村	平成19年6月3日	130名	毎年5月下旬~6月上旬頃、道道66号沿道約2kmにオカリユリの球根植えを実施。事業継続に向けた財源の確保が課題。	村づくり研究会の主催で継続されており、今年度は村内外から約100人以上の参加があった。今年から新たに札幌からボースカウトの方々(60名)の参加があった。
		花いっぱい運動	留寿都村	平成19年8月9日	150名	留寿都村観光協会は、平成19年9月6日にボランティア・サポート・プログラムの協定を交わした。留寿都高等学校が育苗した花苗を地域住民団体が定植し、主に市街地の国道230号線沿いと公共施設等の花壇を中心に景観整備をしている。植栽後の手入等の人材確保が課題。	2008年には洞爺湖サミットが開催され、国際メディアセンターが留寿都村に設置されることから花でのおもてなしを今まで以上に力を注ぐ予定。
	尻別川などの自然豊かな水辺の景観をつくる	尻別川クリーン作戦	蘭越町 小樽開発建設部 後志支庁	平成19年6月30日	300名	シニック活動団体である「リベツリバーネット」が主催となり、清流日本一の尻別川の清らかな流れを守ることが流域全体の自然を大切にする心の和を広げることを目標として、カヌー等を使って清掃。作業終了後は地域との交流を図る交流会を実施。	約300名のボランティアの参加を得て実施。アンケート結果から「また来年も参加したい」との声が多く、尻別川を愛する心が育まれてきている。今後は清掃活動を通じてマナーの向上を目指す。
地域づくり	歴史や文化資源も含めた地域資源の発掘と活用	雪トビアフェスティバル2007(実行委員会構成メンバーとして参加)	俱知安町	平成20年2月16,17日	—	雪トビアフェスティバル2008(平成19年2月16~17日開催)の実行委員会構成メンバーに参画。スノーキャンドル等の企画実施に従事。今年はシニックナイトの第3弾として市街地から比羅夫地区までキャンドルが連なった。	地域活動団体(WAOニセコ羊蹄再発見の会)との連携がこれまで以上に強化され相互補助による取り組みとなった。
	地域コミュニティを大切にした地域づくりの推進	「シニックナイト2008」への協力・参加	小樽開発建設部、小樽開発建設部俱知安道路事務所	平成20年1月26日 平成20年2月9日	40名	広報PR等の支援、キャンドル点灯の参加等地域住民と協働作業を行うことでエリアとして連携した事業に発展した。また、取り組み内容は新聞等各種広報媒体に掲載された。	継続的に向かた支援体制についての検討が必要。
	地域の人材の育成と活用	中山峠観光トイレの管理委託(シニックハイウェイラザin中山峠の管理運営)	喜茂別町	通年	—	昨年度に引き続き、平成19年度にNPO法人もべつWAOが実施した各種事業について広報活動、人的支援等の協力を行った。	財政状況が厳しい中、行政側として活動団体に金銭的な支援は厳しい状況にある。そのような中で喜茂別町としてセンターを運営していく、もべつWAOに対し中山峠観光トイレの管理を委託することで、雇用の創出、活動資金の捻出、観光ホスピタリティの向上等お互いにメリットがありシニックの発展につながれる。
観光振興	農産物など地場産品を活用した魅力づくり	食をテーマとしたイベントの実施(ニセコ羊蹄エリア「秋のふれあいマーケット」の開催)	俱知安町、俱知安町教育委員会、後志支庁、北海道開発局小樽開発建設部他	平成19年11月3日	300名	地域活動団体が主催するニセコ羊蹄エリアのイベントに協力。主な内容としては、「ニセコ羊蹄エリア農産物の販売会」「美術館、風土館の企画展」、「シニックハイウェイ北海道の紹介(パネル展)」等を行った。	俱知安町広報誌への掲載折り込みチラシの配布等広報支援を行った。
	エリアのきめ細かな情報の発信	しりべしシステム事業との連携(HP等の媒体活用による情報受発信)	後志支庁、小樽開発建設部	通年	—	「しりべしシステム」では、地域だよりとして各自治体からのイベント情報を随時提供している。また、シニックハイウェイセコ羊蹄エリアのサイトにユーモアについても、お薦め景観ポイントやシニックイベント情報等の提供を検討中。	「しりべしネット」と「シニックニセコ羊蹄エリアサイト」とのリンク及び連携した形での情報提供についての検討が必要。
	地域とのふれあいを大切にした観光の推進	食をテーマとしたイベントの開催支援(きもべつアスピラ祭り)	喜茂別町	平成19年5月27日	300名	「アスピラ祭り」では、きもべつ特産のホワイト&グリーンアスピラを試食、販売。「きもべつ秋の味覚祭り」では、喜茂別産のじゃがいも収穫体験を企画・実施。事前の周知もあり、来場者多数。	企画及び当日の運営については地域活動団体が主体となってを行い、来訪者とのふれあいの機会を提供することにつながった。
その他	★「環境」に対する取り組みの推進	カーボンオフセット型ツアーの支援(ルスツふるさと公園敷地内への植樹)	留寿都村 小樽開発建設部	平成19年10月23日	29名	シンガポールからのドライブ観光客を対象にツアー中に排出される二酸化炭素を吸収する「カーボンオフセット」ための植樹を実施。留寿都村は植樹用地として村有地の提供とその後の維持管理に協力する。	環境に配慮したこのような取り組みには非常に期待が持てる。自治体としては積極的に植樹用地の確保等協力したい。
	★エリア全域を対象とした「環境」に対する取り組みの推進	エキノコックス駆除活動の普及啓発支援	小樽開発建設部 他	通年	—	地域の活動団体であるNPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会が主体となって実施している取り組みの普及啓発に関する支援を実施。	エリア代表者会議や行政連絡会議等の各種行政機関が参加する場で話題提供し、エリア全体としての取り組み発展に向けた支援を今後も行う。
	★エリア全域を対象とした「洞爺湖サミット」に向けた取り組みの推進	ガイアナイトinしりべし	後志支庁地域振興部 小樽土木現業所	平成20年3月30日	—	洞爺湖サミットまで残り99日となる3月30日の夜、電気を消して、ローソクの光で環境について考えるサミット応援イベント。	エリア内の地域活動団体及び関係機関等との連携イベントとなつた。

3. 地域及び行政の運営に関する報告

・支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルート ニセコ羊蹄エリア代表 古谷和之	報告年月:2008/3/31
----------------------------	--------------------------------	----------------

基本方針	具体的活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営に 関わる事項	景観形成の推進	羊蹄山麓広域景観 づくり推進協議会 (シニックバイウェイ活動団体の参画)							●12月13日 案内標識検討部会			●3月17日 H19年度行動報告会 ●3月25日 案内標識検討部会		
	エリアでの花植え、 植栽	企画・検討	最終調整	各種花植え 活動の実施 (6月エリア植 栽活動月間)										
	清掃活動の実施	企画・検討	春の清掃 活動実施	春の清掃 活動実施		企画・検討	秋の清掃 活動実施	秋の清掃 活動実施						
	地域づくりの推進	エキノコックス駆除 事業の実施			○ペイト散 布	○ペイト散 布	○ペイト散 布	○ペイト散 布	○ペイト散 布	調査・分析	●2月14日 報告会開催 (俱知安町にて)			
		シニックナイト 2008の実施			●8月9日 実行委員会 開催 (3エリア共同)	企画立案	●11月15日 実行委員会 開催 (3エリア共同)	最中調整	●1月26日 第1弾実施	●2月10日 第2弾実施				
	観光の推進	シニックデッキ・カ フェの設置	企画・検討		シニックデッキの設置									カフェは通年 営業
		外国人ドライブ観光 客ツアーの対応					最終調整	●10月22日 ツアーコンタクト						
	エリア運営	エリア代表者会議 開催			●8月23日 開催 (エリア代表者 会議)		●10月26日 開催 (秋のふれあい マーケット実行 委員会)		●1月30日 開催 (エリア代表者 会議)					

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)	報告者:小樽開発建設部	報告年月:2008/3/31
----------------------------	-------------	----------------

基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営に 関わる事項	行政連携に関する ヒアリングの実施									行政関係機関ヒアリング				
	行政連絡会議の実 施									行政機関景観・観光・地域取り組み状況等				
	三開建連絡会議の 実施				●7月20日 第1回開催 (洞爺湖)				●12月13日 羊蹄山麓広域景観づくり			●3月25日 羊蹄山麓広域景観づくり		

4. 審査委員会意見に関する報告

・支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルートニセコ羊蹄エリア代表 古谷和之	報告年月:2008/3/31
----------------------------	-------------------------------	----------------

		支笏洞爺ニセコルート運営代表者会議の報告	支笏洞爺ニセコルート行政連絡会議の報告	備考
シーニック バイウェイ ルート全体 に対する意 見	景観への取り組み: 景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出	羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会と連携して美しい景観づくりに向けた検討・取り組みを進めている。今年度は、シーニックのルートサインの試行設置について案内標識検討部会にエリア代表者会議から提案し、全会一致の承認を得て次年度試行設置されることになった。	協議会設立以降、地域住民、シーニック活動団体、行政機関の協力を得ながら、「広域景観づくり指針」(地元案)を作成し、知事(後志支庁長)に提出するとともに、「羊蹄山麓7町村への景観法適用の検討」について要望を行った。また、羊蹄山麓広域景観づくり推進地域(地域の指定 条例第16条)として指定された。	
	持続性の確保: 参加する各主体(国、道、市町村、活動団体、住民)による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用	羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会では各部会にアドバイザーがおり、適宜助言を受けるなど、取り組みの推進には非常に重要である。今後、ニセコ羊蹄エリアのシーニックバイウェイの取り組みに対するアドバイザーの導入について検討を行う。	羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会では、北海道の景観アドバイザーの方々にオブザーバーとして参加頂き、適宜助言等を受けている。	
	地域特性の活用: 北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保	ニセコ羊蹄山麓地域を訪れる観光客への「おもてなし」ホスピタリティの向上、地域のイメージアップと関連経済の活性化に貢献するために、羊蹄山麓の観光資源をはじめ歴史、文化、産業などの情報を集約し、ガイド育成のためのテキストブックを作成。	後志支庁管内の地域住民に対して、北海道洞爺湖サミットへの理解促進と気運醸成を図るために、各市町村が発行する広報誌に、サミットの概要、各地域の取り組みの紹介、地域住民に対して周知することなどといったサミット関連の記事を連載。	
	ホスピタリティ向上: 研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成	「ぐるっと羊蹄山まちしるべ」を活用して、観光ガイド育成事業を推進。平成19年12月1日に実施された検定試験には、東京・札幌・小樽・苫小牧・山麓町村から387の受験があり、301名が合格した。	~サミットのおもてなしは花から~をテーマに後志管内のフラワーマスターなど花好きな方が集まった「後志フラワーマスター連絡協議会」が主催して講演会を開催。	
	全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携	マレーシアやシンガポールからのドライブ観光客の現地対応をシンガポールの旅行代理店と連携して実施する等、ニセコ羊蹄エリアが持つ資源の有用性と可能性について確認できた。	ホームページ等の各種情報媒体を通じ、他施策等の紹介等を行った。	
	開かれた運営体制: 繼続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働	シーニックナイト等地域住民が容易に参加できる仕掛けを継続することで、活動団体以外の地域住民の活動の参加が徐々に定着してきている。	行政連絡会議や各機関が主催するフォーラム等に地域活動団体及び地域住民に広く声をかけることで、開かれた運営体制を目指した。	
	既存観光地からの脱却を目指し、歴史・文化・レクリエーションなど幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施	「第7回 全道フットパスの集いinニセコ・ようてい」をニセコで開催するなど、既存資源等を活用したフットパス整備に向けた準備を進めている。	情報に関してはしりべしシステムの既存ネットワーク等の活用により相互の補完関係によるレクリエーションツールの相乗効果が期待できる。役割分担については今後調整が必要である。	
支笏洞爺ニセコルート	今後、3エリアがひとつのテーマでつながり、ブランド化されるため、一層連携した取り組みが必要であるとともに、十分な体制と支援が必要である。	3エリアが連携したルート連携事業として「シーニックナイト2008」を実施。洞爺湖エリアが今回のシーニックナイト2008実行委員会事務局としての役割を担い、他エリアとの連携・調整を図った。実行委員会の規約も制定されるなど、徐々に事務局体制の強化を図っている。	ルート連携事業の推進にあたり、三開発建設部による連絡会議を定期的に開催し、情報提供・共有を積極的に図っている。	
	地域住民、旅行客が共有できるようなテーマ、ルート名(愛称含む)等の工夫が引き続き必要	ニセコ羊蹄エリアを訪れる旅行者および地域住民が同エリアがシーニックバイウェイのルートであることを認識してもらうことを目的として、シーニックルートサインの試行設置を行うこととなり、並行してルートロゴやエリアロゴ等、ルートブランドの構築に向けた検討を進める予定である。	国土交通省の社会実験において俱知安町比羅夫地区の案内標識のあり方について官民共同による検討を行った。	
	ウェルカム北海道エリアについて、市街地部の景観改善が本ルートの重要な役割を担うことから、景観意識の向上等に継続的に取り組んでいく必要である。	—	—	
	「食」文化について一層の取り組みを期待したい。	ニセコ町食品加工サークルが母体となり、ニセコ在住の15人のおばあちゃん達による組織「じゅうごはん」が郷土の「おふくろの料理」を企画。ニセコ羊蹄エリアの各種イベントやフォーラム懇親会等で地場産品を活用した料理を提供して好評を博している。	後志支庁が「後志ふぞろいの食材応援事業」を実施。後志支庁のホームページ等で情報提供を行っている。	

5. 平成18年度活動報告への助言に対する状況報告

・支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)	報告者:ニセコ羊蹄エリア代表 古谷和之	報告年月:2008/3/31
----------------------------	---------------------	----------------

平成18年度活動報告への助言	平成19年度 状況報告			備考
ルート代表者会議への助言	記載事項	現ルート運営計画	新規 記載事項	
○変動する社会情勢を踏まえつつ、ルート運営活動計画の更新を検討されたい。 ルート運営活動計画は各ルートにおける取り組みの基本となるものであることから、「急増する外国人観光の対応」や「地球環境への配慮」等の社会的要請を踏まえ、ルート運営活動計画に追加検討をする必要がある。併せて、各ルートにおいて抱える課題、目標、活動状況に応じて計画内容の更新、改訂などをを行い、ルート全体での理念・活動指針を改めて明確化する必要があることを助言とする。	・ルート代表者の位置づけ変更 ◆「環境」に対する取組の推進について新規記載	・各エリア代表が、ルート代表を兼任 —	・ルート代表を1名とし、各エリアの持ち回りとする。 (平成20年度はウェルカム北海道エリア) えにわシニックプロジェクト 泉谷 清 (平成20年度ルート代表)	—
	—	—	エリア全域を対象とした「環境」に対する取り組みの推進(エキノコックス駆除活動)	・ニセコ羊蹄地域が国際的な観光地へ発展するための環境整備のひとつとして、人間と野生動物が安全に共存できる状況をつくるための生態系修復の試み。
	—	—	—	・計画策定の際には実現されていなかった取り組みが企画・実施されるなど、ルート指定から5年目を目前に運営活動計画の修正について本格的に検討したい。 ・また、計画修正にあたり地域振興による経済評価や効果等の視点も考慮したい。
行政連絡会議への助言				
○ルート運営の更なる充実に向け、各ルートの状況に応じて、行政連絡会議における積極的な取組を期待する 各ルートの活動において、既に拡大された取組や、今後の拡大が見込まれる取組を視野に入れ、ルートの状況に応じた行政連絡会議の構成機関追加の検討や、他ルートでの取組事例も参考にしながら、より積極的な取組を行う必要があることを助言とする。	羊蹄山麓地域は、本道を代表する観光リゾート地域で、その自然や農村景観、沿道景観等は貴重な観光資源のひとつとなっており、広域の取組みが不可欠となっていた。また、この地域は、シニックバイウェイ制度の支笏洞爺ニセコルート、ニセコ羊蹄エリアと大部分が重なっており、多くの活動団体が積極的に活動している道内でも先進的な地域といえる。協議会設立以降、地域住民、シニック活動団体、行政機関など、各種関係機関が連携して「広域景観づくり指針」を作成し、知事に提出するとともに、「羊蹄山麓7町村への景観法適用の検討」について要望を行い、引き続き検討を行っている。			—